

「プラスチック資源循環アクション宣言」の応募状況 企業・業界団体一覧表

企業等名称の下線は、本日、取組を紹介していただく企業等

平成30年11月20日現在

No	企業等名称	業種	主な取組内容	内 容					ページ
				3R	研究開発	国民理解	国際協力	その他	
1	ユニー(株)	食品小売業	①使用済みプラスチックのリサイクルループ ②ペットボトルのキャップにより寄付、再生 ③レジ袋有料化 ④バイオマスプラスチック製容器包装の導入	○					1
2	一正蒲鉾(株)	食品製造業	①使用済みプラスチックのリサイクル ②使用する食品トレーの減量化 ③代替素材の研究 ④環境経営	○					2
3	(株)セブン&アイ・フードシステムズ	外食業	①デニーズでのストロー提供原則禁止	○					3
4	(株)ファインテック	機械製造業	①バイオマスプラスチック等の開発・量産化					○	5
5	日本ハム(株)	食品製造業	①容器包装の簡易化による廃棄物の削減	○					9
6	(株)いなげや	食品小売業	①ペットボトルの回収推進、自動回収機の導入 ②ボトルtoボトル(BtoB)の推進 ③ペットボトルの売却益を小学校等に還元(ペットボトル募金)	○		○			10
7	国分グローサースチェーン(株)	食品小売業	①店舗においてはレジ袋の使用削減を図る ②商品展示会においてもプラスチック問題を取り上げ、啓発活動	○		○			12
8	(株)セブン-イレブン・ジャパン	食品小売業	①ペットボトル回収機の設置(首都圏 300店舗)	○					13
9	公益社団法人 食品容器環境美化協会	団体	①統一美化マークをシンボルとするポイ捨て防止の啓発 ②環境美化教育の支援(表彰) ③市民、企業、自治体等の連携による美化活動(アダプトプログラム)			○			16
10	アサヒ飲料(株)	食品製造業	①通信販売におけるラベルレス商品の発売 ②ペットボトルの減量化 ③植物由来原料の使用 ④環境美化活動	○		○			20
11	ダイドードリンコ(株)	食品製造業	①ペットボトルの自主回収率の向上	○					22
12	キリンホールディングス(株)	食品製造業	①再生樹脂を100%使用したR100PETボトルの導入(BtoB)	○					23
13	サントリーホールディングス(株)	食品製造業	①パッケージの軽量化・薄肉化 ②BtoBからF(フレーク)toPダイレクトリサイクル技術の開発・導入 ③植物由来原料100%ペットボトルの開発	○	○				24
14	(株)伊藤園	食品製造業	①独自のボトル充填システム(NSシステム)を共同開発・採用 ②ペットボトルの軽量化 ③環境美化活動	○	○	○			27
15	森永乳業(株)	食品製造業	①容器包装の環境負荷について認識し、環境配慮設計を推進 ②プラスチックのリサイクルシステムの改善・最適化に協力 ③リサイクルの重要性と分別について消費者啓発を推進	○		○			29
16	大塚製薬(株)	食品製造業	①ペットボトル及び容器包装の軽量化 ②環境美化活動	○		○			31
17	日本コカ・コーラ(株)	食品製造業	①ペットボトルのBtoBと植物由来化 ②容器回収・リサイクルスキームの構築 ③環境美化活動	○		○			36
18	UCC上島珈琲(株)	食品製造業	①都庁舎内店舗における紙ストローの試行参加	○					38
19	雪印メグミルク(株)	食品製造業	①アルミ箔が付着している端材プラスチックの再利用	○					39
20	農業用フィルム リサイクル促進協会	団体	①使用済み農業用フィルムの100%回収をめざした啓発活動、優良事例の紹介等 ②使用済み農業用フィルムのスムーズな処理、持続可能な国内循環モデルの調査、開発及び普及	○	○				40

No	企業等名称	業種	主な取組内容	内 容					ページ
				3R	研究開発	国民理解	国際協力	その他	
21	<u>日清食品ホールディングス(株)</u>	食品製造業	①プラスチック製容器から紙製容器への変更 ②バイオマスプラスチックの導入検討	○					41
22	(株)明治	食品製造業	①プラスチック製容器包装の軽量化・薄肉化、プラスチックから紙へ変更 ②環境に配慮した素材の使用 ③生産工程のプラスチックの再生品へのリサイクル ④物流工程におけるプラスチックの使用量削減とリサイクル ⑤環境美化活動	○		○			42
23	農業用生分解性資材普及会	団体	①生分解性マルチの利用促進 ②生分解性マルチの特性の有効活用 ③生分解性マルチ・プラスチックの利用場面の拡大 ④生分解性マルチへのカーボンニュートラルな原料導入 ⑤国際協力		○		○		45
24	(株)フジ	食品小売業	①店頭での資源回収 ②レジ袋の使用量削減 ③ピーチクリーン活動	○		○			47
25	ヤマサ醤油(株)	食品製造業	①環境負荷の低減も考慮し、樹脂量の削減	○					48
26	日本マクドナルド(株)	外食業	①「ほんのハッピーセット」プログラム(プラスチックおもちゃから絵本へ) ②プラスチックカップから紙カップに変更 ③プラスチックバッグの削減 ④「ハッピーリぼーん」プロジェクト(店頭で回収したおもちゃをトレイに再生)	○					49
27	日本肥料アンモニア協会 全国複合肥料工業会	団体	①被覆肥料殻の農耕地からの流出防止の一層の強化 ②被覆肥料殻の分解性の向上と被覆樹脂使用量の削減に向けた技術開発 ③他の機能性肥料の活用場面の拡大	○	○				51
28	一般社団法人日本植物油協会	団体	①容器包装のプラスチック使用量の削減 ②プラスチックのリサイクルの推進	○					53
29	日清オイリオグループ(株)	食品製造業	①生産工程でのゼロエミッション継続 ②環境負荷の少ない容器・包装開発	○					54
30	(株)J-オイルミルズ	食品製造業	①新素材や新技術の導入(植物由来のバイオマスプラスチックなど) ②プラスチック容器包材の改善(軽量化、薄肉化など)	○					55
31	(株)エフピコ	包材メーカー	①リサイクルの消費者普及啓発活動 ②「トレーtoトレイ」と「ボトルtoトレイ」のリサイクルによる廃プラスチックの削減 ③食品容器の薄肉化による廃プラスチックの削減 ④「二軸延伸PET」技術によるPET樹脂の省資源化	○		○			56
32	(株)モスフードサービス	外食業	①リユース食器の活用 ②石油由来素材の使用削減	○					65
33	カゴメ(株)	食品製造業	①商品におけるプラスチック使用量低減の継続推進 ②生産工場におけるゼロエミッション(含 廃プラスチック)の継続推進 ③再生 PET 原料の利用検討 ④プラスチック容器の散乱防止啓発のための環境美化活動の継続推進	○		○			66
34	(株)ニチレイ	食品製造業	①容器包装について、薄肉化のほか、トレーの使用やアルミ蒸着を見直し ②事業所周辺において、地域の清掃活動に取り組み	○		○			67
35	(株)精工	包材メーカー	①減プラスチック化 ②リユースの促進 ③プラスチックフィルム袋に印字(「包む」でエコ)することで、生活者にも広く発信	○		○			69
36	(株)セコマ	食品小売業	①店舗にて、店内放送でのレジ袋削減の呼びかけ ②たまごパックの回収(価値付け:BOXティッシュ交換)	○		○			80
37	ワタミ(株)	外食業	①プラスチック製品の段階的使用の低減(リデュース) ②積極的な再使用(リユース)と再生利用(リサイクル) ③排出者責任の原則に基づく分別の徹底と適正処理の遵守	○					81
38	(株)悠心	包材メーカー	①プラスチック減量化を可能にした容器の開発 ②プラスチック減量化を図る液体充填包装機の開発	○					82
	計	38		35	5	15	1	1	



「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

ユニー株式会社

ユニー株式会社は、プラスチックが、一度使えば廃棄され自然には分解しないことから、海洋問題など自然破壊につながることを踏まえ、発生抑制や資源として適切に循環する取組を推進していきます。

◆使用済みプラスチック製容器包装のリサイクルループ

家庭ゴミの削減と再資源化を図るために、プラスチック製使用済み容器包装を全店で店頭回収しています。回収した容器包装は、全て再資源として国内循環ルートでリサイクルしています。

2017年の年間回収量は、ペットボトル 2,434トン、発泡スチロールトレイ 279トン。



◆ペットボトルキャップのリサイクル

店頭で回収したペットボトルキャップを再生プラスチック専門企業に売却し、NPO「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に全額を寄付しています。2017年の回収量は100.5トン、寄付金額は2,010千円になりました。また、再生プラスチックは自動車部品の原料としてリサイクルしています。



◆レジ袋有料化実施にてレジ袋削減

2007年からレジ袋有料化を開始しました。2014年に全店にてレジ袋有料化を実現しました。2017年には、ユニー計の辞退率は85.6%となり、ピーク時の2007年と比べ年間68,852千枚の削減となりました。

◆バイオマスプラスチック製容器包装の導入

有料レジ袋は、石油由来100%のレジ袋から2012年よりサトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレン25%含有製品に代えました。また、2006年より全店の青果売場でバイオマスプラスチック(ポリ乳酸透)100%原料にした透明ケースやフルーツカップを導入し、年間約40トン使用しています。



連絡先：ユニー株式会社
担当部署：CSR部
電話番号：052-585-3080

2018年11月7日



「プラスチック資源循環アクション宣言」
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

一正蒲鉾株式会社

一正蒲鉾株式会社は、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、ごみとして環境中に放出されることなく、資源として適切に循環されていくよう、下記のとおり取り組んでまいります。

① リサイクルの推進

プラスチック類の分別処理を徹底することにより、リサイクル推進に積極的に取り組みます。

【具体的には】製造工程における残渣の付着の有無により分別処理

→残渣なしはそのままリサイクル（プラスチックパレット 等）

残渣ありは洗浄後リサイクル（燃料の固化剤 等）

② 使用量の抑制

使用する包装資材の見直しを実施することにより、使用量の抑制に努めます。

【具体的には】使用するトレーの減量化

→カニカマ用トレーを2割減量（薄肉化）他

③ 代替素材の研究

最新技術の研究により、代替素材の研究を行います。

【具体的には】生分解性プラスチックの情報収集

④ 環境経営

会社は、「環境方針」のもと地球環境との共生を図り、持続可能な社会を目指して企業活動を行っていきます。また従業員一人ひとりは、「行動規範」のもと地球環境に対して知識を深め、見識を持って行動します。

【具体的には】「環境方針」および「行動規範」の制定

→ <https://www.ichimasa.co.jp/corporate/pdf/ir/governance2018.pdf>

https://www.ichimasa.co.jp/corporate/pdf/ichimasa_csr2018.pdf

連絡先：一正蒲鉾株式会社

担当部署：経営企画部 広報・CSR推進室

担当者：広報・CSR推進室長 高山

電話番号：025-270-7114

デニーズでプラスチック製ストローの提供原則中止

2018年11月1日より、40店舗で試験的に実施

株式会社セブン&アイ・フードシステムズ（東京都千代田区二番町8-8）は2018年11月1日より、ドリンクバー設置店舗の内40店舗で、プラスチック製ストローの提供を原則中止いたします。

但し、お子様などストローのご使用をご希望のお客様には従来通り提供させていただきます。

昨今世界的に深刻な問題となっております「プラスチックごみの廃棄による海洋や生態系への影響」への配慮の一つとして取り組みます。

今回実施する40店舗でのお客様のお声を参考にして、2019年2月末までにドリンクバーのあるデニーズ全店へ順次拡大する予定です。

11月1日より実施する予定40店舗

茨城県：筑波学園都市店、日立成沢店、日立河原子店、竜ヶ崎藤が丘店、阿見店、鹿島店、水戸城南店、水戸千波店

千葉県：成田店、佐原店、富里店

東京都：竹の塚店、豊島店、墨田堤通り店、町屋駅前店、綾瀬駅前店、亀有駅前店、北千住駅前店、南千住駅前店、梅島店

神奈川県：小机店、片倉町店、新本牧店、横浜西谷店、港北ニュータウン店、長者町店、横浜都筑店、妙蓮寺店、前里町店、中山駅前店、今宿西店

愛知県：天満通店、高岳店、猪高店、石川橋店、長久手店、守山店、名古屋東新町店、瀬戸共栄通店、日進梅森店



この取り組みにより、国連で定めたSDGsの目標12・14に貢献します

◆本件に関するお問い合わせ◆

株式会社セブン&アイ・フードシステムズ経営企画室（広報） TEL.03-6238-3566 FAX.03-3221-7285

■■ デニーズホームページ <https://www.dennys.jp> ■■

株式会社 **セブン&アイ Food Systems** 経営企画室（広報）

〒102-8415 東京都千代田区二番町4番地5 <https://www.7andi-fs.co.jp>

TEL. 03-6238-3566 FAX. 03-3221-7285

ストロー使用中止についてのお願い

日頃より、当店をご利用いただきまして、
誠にありがとうございます。

このたび、世界的に深刻な問題となっております、
「プラスチックゴミの廃棄による海洋汚染や生態系への影響」に配慮し、
当店では平成30年11月1日より、
ドリンクバーで使用しているプラスチック製ストローの使用を
原則中止させていただいております。

お客様におかれましては、今回の取り組みにつきまして、
何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、ストローの使用をご希望のお客様は、
係の者がお持ちいたしますので、ご遠慮なくお申し付けくださいませ。

（デザートドリンクなどストローが必要なお飲み物を）
ご注文のお客様には、予めお持ちいたします。

セブン&アイHLDGS. は、2015年に国連サミットで採択された
「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の達成に向けて、
本業を通じた社会課題の解決に取り組んでいます。
皆様のご協力を心よりお願いいたします。

2018年11月
株式会社セブン&アイ・フードシステムズ



「バイオマスプラスチック資源循環アクション宣言」

～SDGsでバイオマスプラスチック資源の循環・見える化に取り組もう～

株式会社ファインテック

当社は、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、未来に向けて、ごみとして環境中に放出されることなく、資源として適切に循環されていくよう進め、万が一災害等で、海洋に流失しても海洋で分解出来き、自然に帰るバイオマスプラスチック等の開発・量産化を進めます。

持続可能な開発目標（SDGs）

- ① バイオマスプラスチックの Reduce（リデュース）
- ② バイオマスプラスチックの Reuse（リユース）
- ③ バイオマスプラスチックの Recycle（リサイクル）

食品容器等については食品と同様の容器等についてもSDGsと、トレサビリティに取り組んでまいります。具体的には、バイオマスプラスチックの原材料がどの国のどのバイオマス資源でどの様に流通を通して来たかなど又、どの様に最終製品として、トレサビリティが可能か、見える化を進めます。

連絡先：株式会社ファインテック

本社（研究所）東京工業大学産学連携施設

〒226-8510 横浜市緑区長津田町 4259 番地 3 東京工業大学 YVP-W105

電話番号：TEL 045-309-7901(代) FAX 045-309-7902

担当部署：知財・技術 齋藤 米司

URL：<https://finetech.co.jp/>

E-MAIL：saito.yoneji@finetech.co.jp

数社と取り組みを下記のように始めています。



植物由来プラスチックの重要性

フランスでは、世界で初めてプラスチック製のカップや皿を禁止する法律が制定され、2020年1月に施行予定である。このような動きは、今後EU全体に拡大すると予測され、ヨーロッパに製品を輸出している企業にとっては、深刻な問題になる可能性があります。この他にも、CO₂削減を目的とした様々な規制が成される可能性が高くなっていることがわかります。日本においても海外へ製品輸出している企業や海外の流れに押されて、バイオ樹脂(植物由来プラスチックを含む。)の生産が加速することが考えられます。

植物由来プラスチックの成形品製造における課題

- 強度・強靭性が弱い → 添加材を加える
- 原材料費が高い → 低発泡技術等で使用量抑止
- 調合割合、混練具合の調整が必要

条件設定が難しくなる

課題の解決方法のひとつとして...

平成28年度補正「革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金 第四次産業革命型」採択

AI・IoT金型による射出成形品生産システム最適化

AI・IoT金型

pecker

IoT

射出成形機

伝統技術の継承

匠の技術が必要な金型業界では後継者不足に悩まされています。AI・IoT技術の活用で、品質のよい金型の開発が可能になり、製造コストの削減につながります。

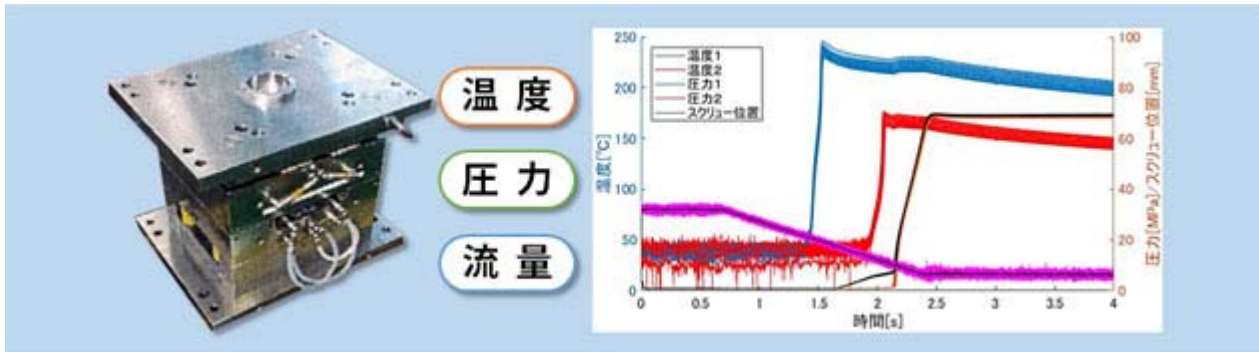
生産効率を向上

生産過程の効率化だけでなく、成形が難しいとされる植物由来樹脂等の付加価値の高い成形品にもAI・IoT技術の活用で、飛躍的に製造効率が上がります。

6 ページ

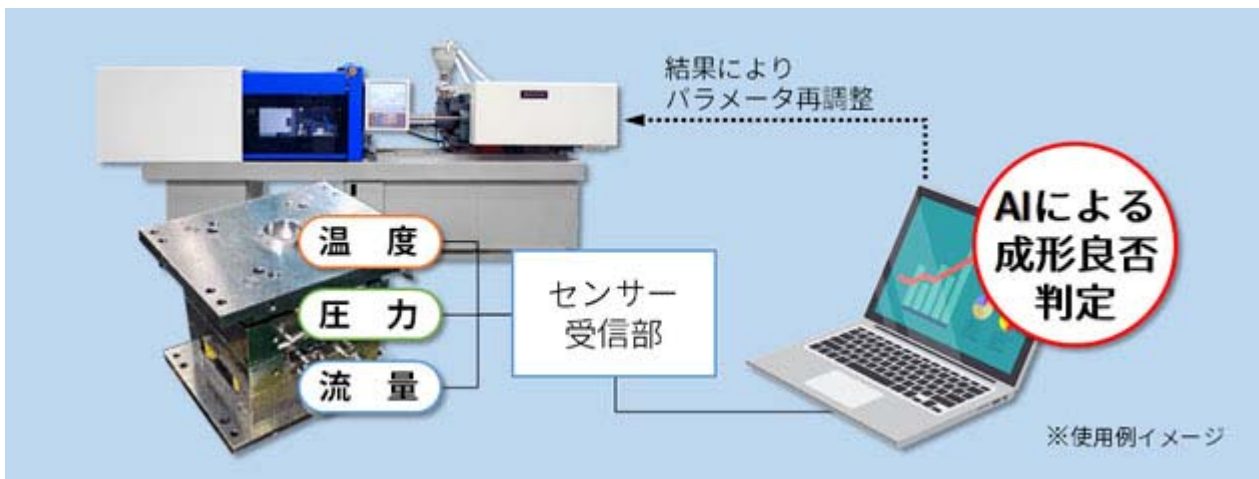
金型内部の状況を把握できるIoT金型

金型に設置された温度・圧力・流量センサーからのデータを収集し、射出成形時の金型内の様子をリアルタイムに確認することができます。



従来のプラスチック及び植物由来プラスチックの成形品生産のための材料特性と金型特性の関連要因を抽出し、AIによる射出成型機用パラメータを最適化することにより、システムの効率化が可能になります。

また、新規開発プラスチック材料の特性を評価するためにIoT金型を採用することで、得られる温度・圧力・流量データからAIを活用して材料特性を導き出すことも可能になります。(開発中)



IoT金型より得られたセンサーデータを元に成形品の良否判定を行い、不良品が出た場合、次回以降の成形で再び成形不良が出ないように、蓄積したセンサーデータ及び射出成形機の状況から射出成形パラメータを再調整します。(開発中)

金型状態と射出成形情報の管理

ネットワーク(クラウドサービス含む。)を利用して金型状態、射出成形情報を管理することにより、金型や射出成形機のメンテナンス時期を予測し、事前にメーカーなどに連絡して、対応を早めることも可能であり、早期問題解決による生産性アップにも貢献します。また、金型にIDタグを取り付けることにより、その金型自身にも金型状態や情報を持たせることができます。(開発中)



植物由来の高機能プラスチック開発

軽くて強靱であるカーボンナノチューブやセルロースナノファイバーを『竹』由来で生産し、それを植物由来プラスチックと混合した高機能プラスチックの開発を行っています。(開発中)

竹(孟宗竹)は繁殖力が異常に強く、資源として豊富にあります。その竹から抽出された物質を原料とした素材を開発し、応用製品の研究開発も進めています。

ニッポンハムグループの環境への取り組み

ニッポンハムグループは、「ニッポンハムグループ環境方針」を掲げ、持続可能な社会の実現に向けて、環境と調和のとれた企業活動を推進しています。

事業活動や商品のライフサイクルにおいて、地球環境に及ぼす影響を把握し、その削減に向けて取り組んでいます。

容器包装簡易化による廃棄物の削減

商品・サービスへの環境配慮として、商品の鮮度・味を保ちつつ、商品の容器包装簡易化や再生ペット・紙トレーなど他の材質への変更も検討し、地球環境に配慮した取り組みを推進してまいります。

1 「これは便利」シリーズ(生ハム)

バックの厚みと幅を変更して、包装材料フィルムの軽量化に努めています。



2 「石窯工房®」シリーズ(チルドピザ)

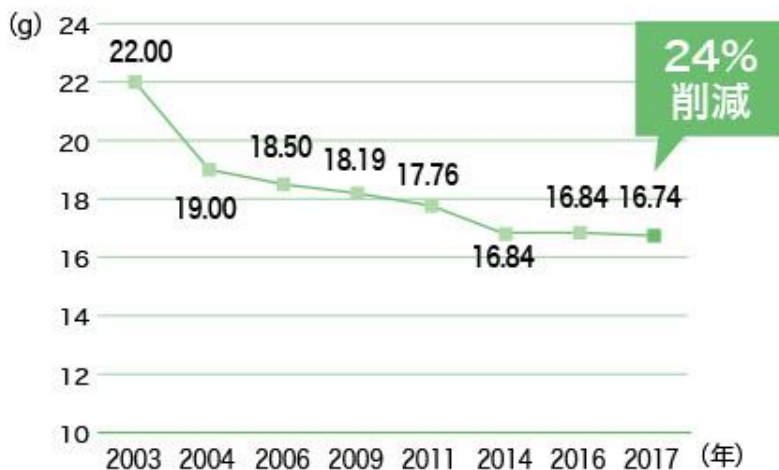
トレーのプラスチック重量を**34%軽量化**※



※当社従来品比(2012年度)

3 「中華名菜®」

ニッポンハムグループは、ラベルシールの削減や包装フィルムの薄肉化などにより、容器包装の削減に取り組んでいます。「中華名菜® 酢豚」の包材(トレー、外装フィルム)の軽量化によって、2017年度は2003年比包材重量**24%削減**しました。



株式会社 いなげや

〒190-8517 東京都立川市栄町 6-1-1

社長室 広報 TEL 042(537)5287

2018年11月8日

“ペットボトル自動回収機”導入の取り組み

株式会社いなげや(本社/東京都立川市、代表取締役社長/成瀬直人)は、いなげや店舗の店頭で“ペットボトル自動回収機”を導入し、省CO₂型リサイクルシステムを構築することで、ペットボトルからペットボトルへのリサイクル“ボトル to ボトル”を推進しております。

ペットボトル回収量が年々増加

容器包装であるペットボトルは、安全安心・便利で軽量なことから、飲料などの商品を販売することに、最も適した容器素材として、消費者に広く普及し欠かせないものとなっています。メーカーの容器開発も盛んなことから市場への流通量が増加するに従い、当社での店頭回収量が年々増え続けており、今後も益々増加することが予想されております。

自動回収機を60台導入

2017年、環境省補助事業を活用し、トムラ・ジャパン株式会社(本社/東京都大田区)より“ペットボトル自動回収機”を購入いたしました。平成27年9月より設置をはじめ、回収量の多い店舗から、順次60台が稼働致しました。

2018年11月現在、75台の設置をしております。

機器の特徴

- ・トムラ・ジャパン社製 圧縮タイプ、破砕タイプ
- ・識別センサーにより、色付き・ラベル付き・汚れ・残渣のボトル選別。(産業廃棄物の排除)
- ・圧縮(つぶす)することで、ボトルを減容(1/3~1/4)でき、店舗での回収作業頻度が減少する。(圧縮タイプ)
- ・減容により、保管スペースの削減や、積載率の向上から輸送効率の向上も期待できる。
- ・優良な資源として効率的な再生原料の製造につながる。

当社戻り便を活用

回収したペットボトルを以前は個店ごとに収集しておりましたが、当社物流センター（立川青果・生鮮センター）から各店に商品配送した戻り便を有効活用し、同センターに集約しています。この集約したペットボトルを、効率良く再生事業者へ輸送することで、CO2の削減につなげてまいります。

ボトル to ボトルを推進

現在、国内で回収されたペットボトルの約半数が海外に輸出され、繊維などのリサイクル素材として使用されています。しかし国内で回収されたペットボトルは、国内の貴重な優良資源として国内循環することが望ましく、限りある天然資源（石油）の使用抑制や、CO2の削減に寄与することと考えております。

回収されたペットボトルは、リサイクル資源として国内有数の精製技術を有する再生事業者へ売却します。その後再生ペットとして生まれ変わったペットボトルを、国内の飲料メーカーによって使用されます。

いなげやは、“ボトルtoボトル”を推進し、循環型社会の実現に貢献してまいります。

いなげやペットボトル募金

店頭回収されたペットボトルは、お客様からお預かりしたリサイクル資源として、売却益の一部を地域に還元いたします。

2018年度は、設置店舗地域47の小学校と2ヶ所の団体に環境に繋がる教材・備品を寄贈いたしました。



三鷹市立高山小学校



日野市立第一小学校

いなげや各店にあるリサイクルステーションをはじめとする環境活動を通じて、地域のお客様と共に環境意識を高め、今後も様々な取り組みを行うことで地域にいらします。



「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

環境理念 「人と社会に調和する商い」

2018年11月12日

～私たちは食を通じてこころ豊かな暮らしをお届けし、
地球環境に配慮した商いをいたします～

国分グローバルチェーン株式会社

国分グローバルチェーンでは、海洋プラスチックごみ問題をはじめ、プラスチック資源循環のあり方が注目される中、まずは社員の環境問題に対する意識を高め、社員の日常生活、職場環境から、廃棄物が資源として適切に循環されていくように啓発してまいります。

- ① 毎週1度、朝礼にて、社員全員で「国分グループ環境方針」を唱和する
- ② 社員全員、商工会議所主催の「E C O-検定」を受験し、合格を目指す
- ③ 環境に対する集合研修、Eラーニング等、「自己啓発」を推進する
- ④ 加盟店の店舗においてはレジ袋の使用削減を図るため、お客さまへの声掛けの徹底、店内放送等による告知を積極的に実施しております。
- ⑤ 商品展示会においてもプラスチック問題を取り上げ、啓発活動を推進していきます。
- ⑥ 製造メーカーのご協力のもと、包装資材、パッケージを使用する商品の選択、選定も検討してまいります。

連絡先： 国分グローバルチェーン(株)

担当部署： 経営統括部 山口

電話番号： 03-6861-9814

2018年11月13日

「プラスチック資源循環アクション宣言」
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社セブン-イレブン・ジャパン

株式会社セブン-イレブン・ジャパンは、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、ごみとして環境中に放出されることなく、資源として適切に循環されていくよう、ペットボトルのリサイクルに取り組んでおります。

- ・ ペットボトル回収機の設置
セブン-イレブンの首都圏 300店舗に設置

資料 : セブン-イレブンニュースリリース 2017年11月30日
ペットボトル回収機スキーム

連絡先

担当部署: 企業行動推進室 環境推進

電話番号: 03-6238-3704

消費者参加型のリサイクルを推進

2017年11月29日

セブン-イレブンの店舗を活用した“循環型社会”構築に向けた取り組み ペットボトル回収機の設置拡大

～12月より東京都と埼玉県のセブン-イレブン計300店舗に順次設置～

株式会社セブン-イレブン・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：古屋 一樹）は12月より、ペットボトル回収機の設置店舗を、東京都と埼玉県のセブン-イレブン計300店舗に順次拡大いたします。

ペットボトルの消費量は年々増加しており、資源の有効活用が課題となっています。当社では、2015年12月より、東京都江東区内の5店舗でペットボトル回収機の設置テストを実施してまいりました。

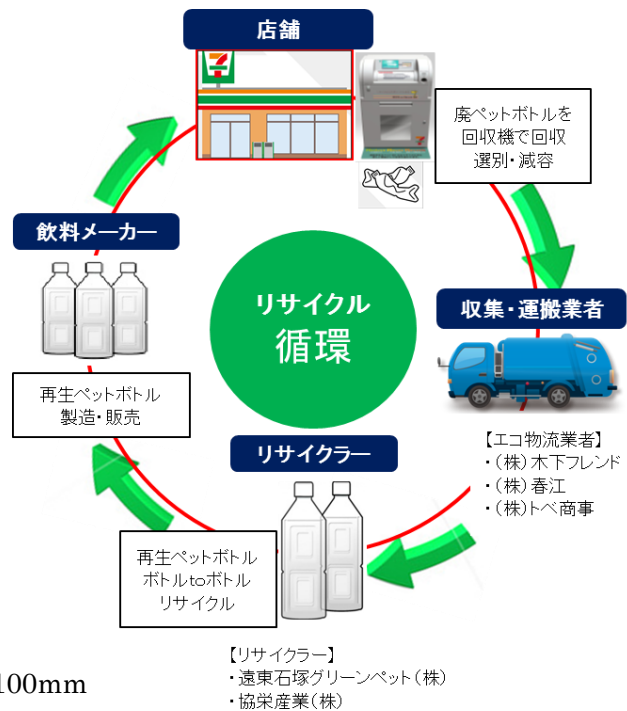
今回の取り組みを機に、国内での循環をさらに推進するために、店頭回収機に集まったペットボトルを再生し、もう一度ペットボトルに戻す「ボトルtoボトル」を目指してまいります。

当社は、今後も店舗に集まるペットボトルを資源として、地域社会と一体になったリサイクル活動に継続的に取り組み、“循環型社会”の実現に貢献してまいります。

■コンビニ用小型ペットボトル回収機



■循環型リサイクル フロー図（イメージ）



【開発メーカー】株式会社寺岡精工

【機械サイズ】W:650mm、D:500mm、H:1100mm

【収 容 量】500ml ペットボトル 150 本

<nanaco ポイントの付与について>

電子マネー「nanaco」を nanaco リーダーにタッチしてからペットボトルを回収機に投入いただくと、ペットボトル5本投入につき1 nanaco ポイントが付与されます。

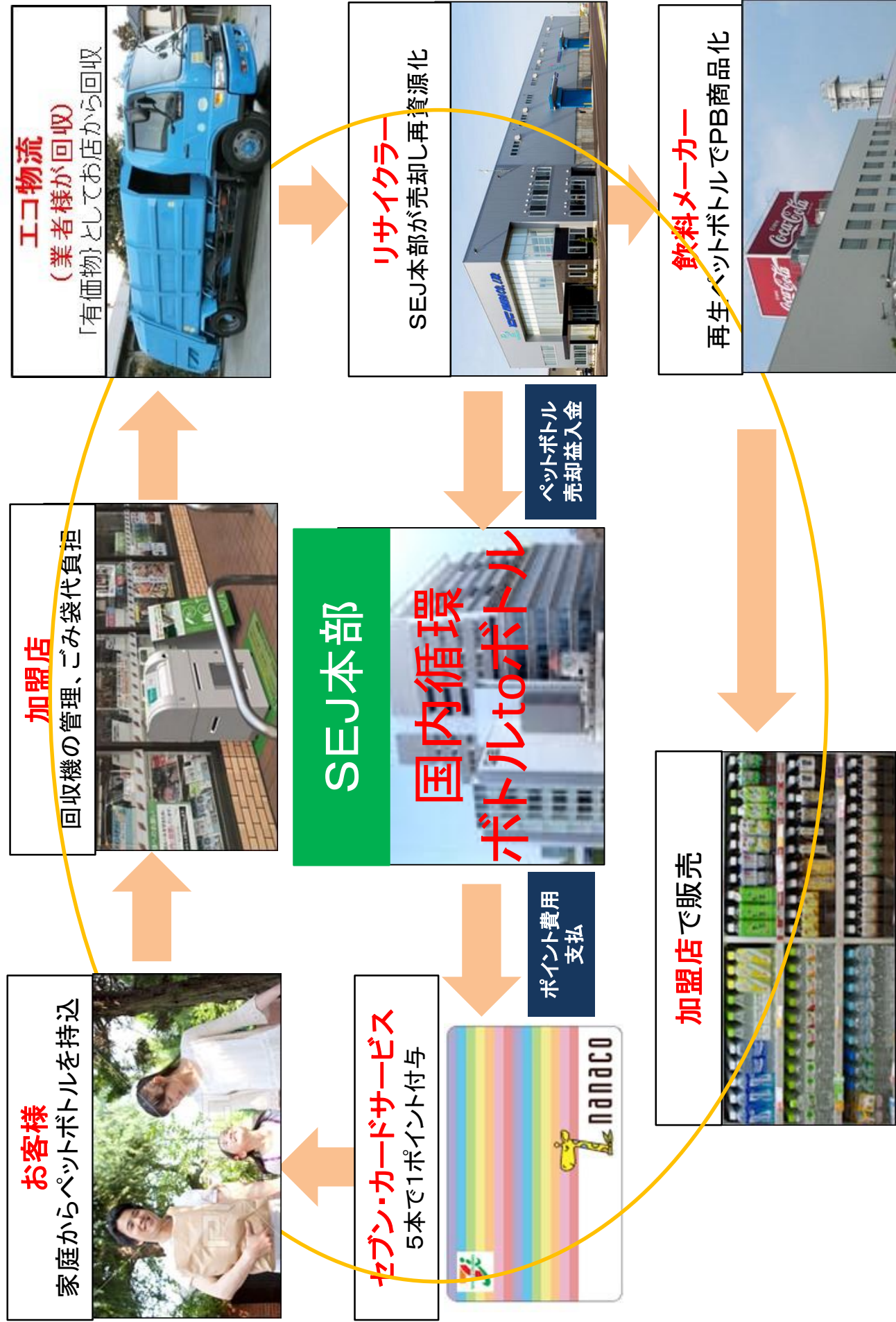
※投入されたペットボトルは累積でカウントされ、5本貯まった時点で3日後にポイント付与。

nanaco ポイントを付与することで、より高品質なペットボトルを効率的に回収し、身近な消費者参加型のリサイクルを推進します。

※この事業は環境省の「省 CO2 型リサイクル高度化設備導入促進事業」に基づいた取り組みです。

以上

ペットボトル資源回収スキーム



2018年11月

ポイ捨て防止への決意を新たに
～その意義を見つめ直して～

飲料メーカー6団体[※]からなる弊会は、飲料容器を中心に食品容器のポイ捨て防止、環境美化を目的として、40年以上にわたり活動してまいりました。

今般の海洋プラスチック問題については、陸域、海域を問わず、プラスチックが人為的コントロール下から離れ、環境中に放出されないようにすることが最も基本となるべき対策であると考えます。

また、対策として検討される生分解性プラスチックなどの代替素材の導入は、モラルハザードを引き起こし、ポイ捨てを助長するおそれがあるとの指摘があります。

このため、弊会は、以上を踏まえた自らの目的の今日的意義を改めて認識し、会員各社とともに、場所、容器の素材のいかににかかわらず、引き続き以下の活動を推進してまいります。

- ① ポイ捨て防止啓発
- ② 環境美化教育の支援
- ③ アダプト制度の普及

具体的には、別添参照。

関連 URL: <https://www.kankyobika.or.jp>

※ 全国清涼飲料連合会、全国トマト工業会、日本果汁協会、コカ・コーラ協会、
日本コーヒー飲料協会、ビール酒造組合

連絡先：公益社団法人 食品容器環境美化協会
電話番号：03-5439-5121

①”統一美化マーク”をシンボルとするポイ捨て防止の啓発

<取組みの概要>

1. 公益社団法人 食品容器環境美化協会(食環協)は、会員各社とともに、「統一美化マーク」(1981年採用)をシンボルマークとして、飲料容器のポイ捨て防止を約40年にわたり消費者に呼びかけ続けている。

統一美化マーク

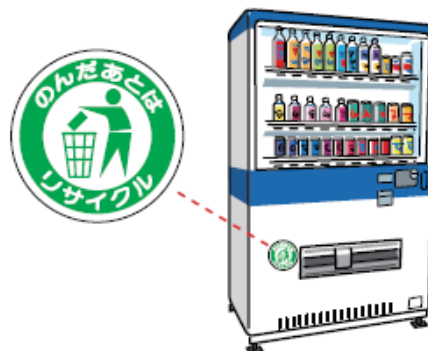


2. もともと1970年代始めの空き缶散乱問題に対処するための取組みからスタートしたものであるが、飲料容器の主流がビン、缶からペットボトルに移行するなどの時代の変化に応じ、統一美化マークも、その表示内容を変えながら、新聞、テレビ広告や自動販売機や立て看板、のぼり、横断幕などで、食環協及び会員各社が機会あるごとに掲出してきた。

散乱防止啓発ポスターを制作し、配布



自動販売機にステッカーを貼付

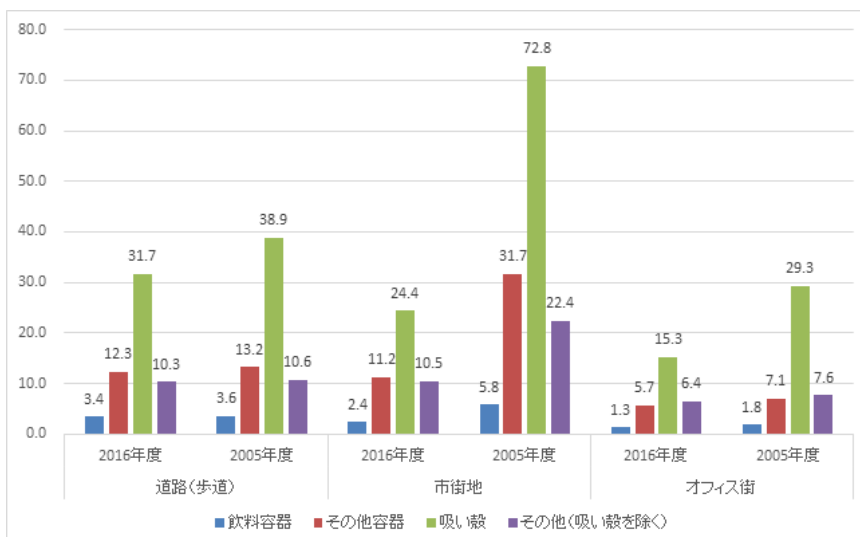


<これまでの実績>

3. 法律で義務づけられたものではなく、飲料業界による自主的なシンボルマークであるが、政府の「空きカン問題連絡協議会(関係11省庁で構成)」において、その活用が申し合せ事項となる(1981年4月)などを経て、広く消費者に浸透している

4. 食環協の調査※(2016年度)によれば、飲料容器については2005年度と比較すると、歩道、市街地、オフィス街のすべてで平均散乱量(100m当たりの個数ベースの集計)は減少している。

ごみの種類別平均散乱量(単位:個)



※2005年に調査した首都圏、近畿圏の「散乱ごみ観測地点・50カ所」を2016年に再調査したもの

② 美化の心を子供たちに引き継ぐ環境教育の支援

<取組みの概要>

1. 未来の社会を担う子供たちに、環境美化や資源循環の大切さを知り、必要な実践に移してもらうことを促進する観点から、公益社団法人 食品容器環境美化協会(食環協)は、次のような環境学習支援を行っている。

【環境美化教育の優良校の表彰】

1975年から、小・中学校を対象に作文コンクール等を実施してきたが、2000年度からは、文部科学省、農林水産省、環境省の後援を得て、散乱防止・リサイクルの実践教育で優秀な成果をあげている全国の小・中学校の表彰を行っている。



【児童向け環境学習支援サイトの提供】

楽しみながら学べる学習支援サイト「まち美化キッズ」をHPに開設し、学習プログラムの紹介ならびに関連資料の提供をしている。



【先生向けガイドの提供】

小学校での「社会科」「家庭科」「総合的な学習の時間」及び環境教育・環境学習の実践の場のための、小学校の先生向け環境学習ガイドを作成し、HPで提供している。



<これまでの実績>

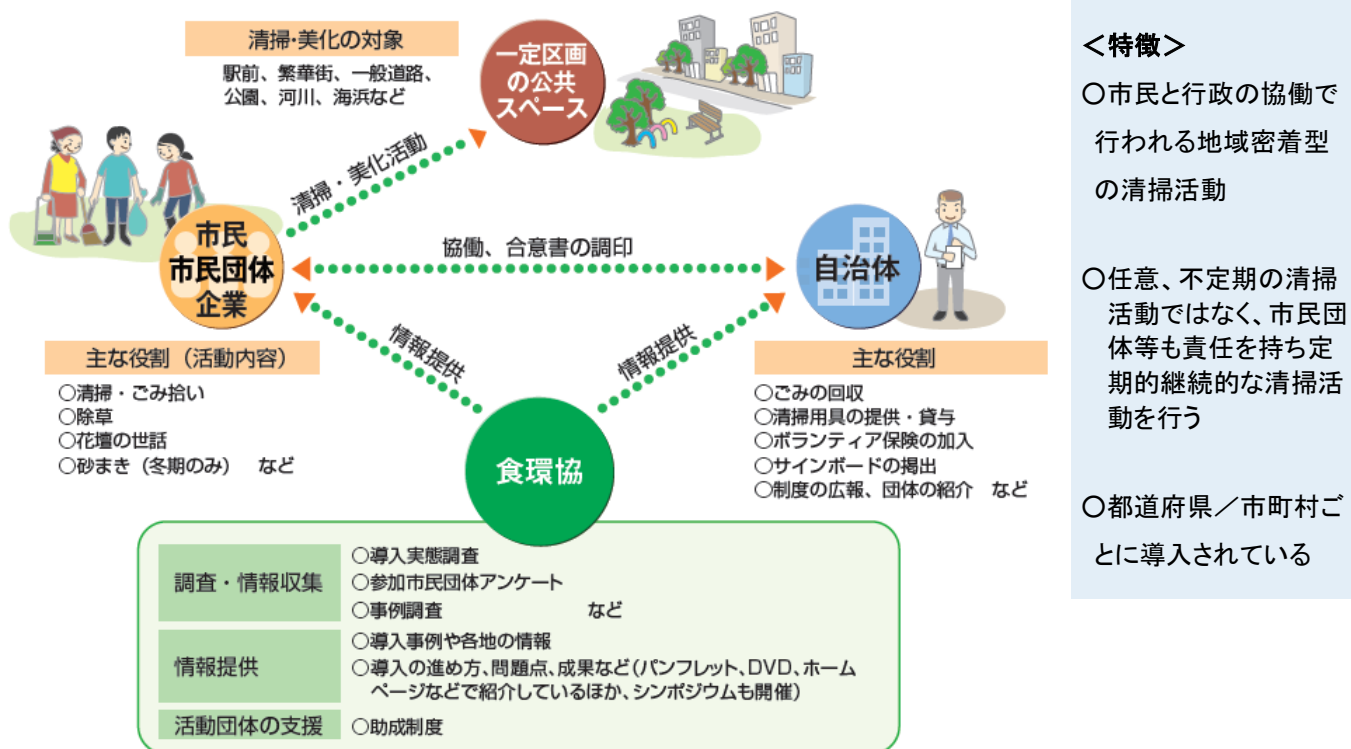
環境美化教育の優良校等表彰
47 都道府県 1,147 校
(2000年～2017年累計)

③ 新たなまち美化手法「アダプト・プログラム」の提案

<取組みの概要>

1. アダプト・プログラムは、1985年、ハイウェイでの散乱ごみ問題が深刻化していたアメリカで生まれたまち美化・清掃活動プログラムである。
2. アダプト(Adopt)は英語で「養子縁組をする」という意味。
「アダプト・プログラム」とは、一定区画の道路や公園、駅前通りといった公共スペースを養子に見立て、地元の市民や企業・団体がわが子のように愛情を持って面倒をみ(=清掃美化を行い)、行政がそれを支援(ボランティア保険の加入等)するというものである。

<アダプト・プログラムのイメージ>



<特徴>

- 市民と行政の協働で行われる地域密着型の清掃活動
- 任意、不定期の清掃活動ではなく、市民団体等も責任を持ち定期的継続的な清掃活動を行う
- 都道府県／市町村ごとに導入されている

3. 公益社団法人食品容器環境美化協会(食環協)は、いち早く「アダプト・プログラム」に着目し、1998年から全国に紹介、その普及に努めるとともに、2012年からは、活動団体又は新たに活動しようとする団体に対し、清掃活動及びポイ捨て防止・啓発活動に必要な諸費用、清掃グッズを助成、支援している。

<これまでの実績>

アダプト団体への助成
 助成先 436件
 助成総額約 29百万円相当
 (2012～2018年度累計)

<全国の導入状況>

- ・実施自治体数: 381自治体
 - ・アダプト・プログラム数: 約530プログラム
 - ・参加団体数: 43,000団体以上
 - ・活動者数: 250万人以上
- (2017年12月現在 食環協によるアンケート調査結果)

プラスチック資源循環に資する取組みについて

2018年のトピックス

「人にやさしく、地球にもやさしい」「ラベルレス”のミネラルウォーター」
～ 廃棄物削減を実現する、環境分野での新たな取り組みを開始！ ～

2018年5月、当社初の、商品にロールラベルをつけない商品となる“ラベルレス”商品を発売しました。



アサヒ おいしい水天然水
ラベルレスボトル
PET600ml、PET1.9L

ラベルに使用する樹脂量を
約**90%**削減

廃棄物量削減に貢献

ラベルをはがす**手間を省く**



外装ダンボールに「COOL CHOICE」、「COOL CHOICE」できるだけ1回で受け取りませんかキャンペーン」マークを記載

※通信販売専用で、総合オンラインストアAmazon.co.jpでテスト販売しています。
※通常、ロールラベルに記載している原材料名などの一括表示は外装ダンボールに記載するとともに、個々の商品への記載が必要なりサイクルマークなどはタックシールに記載し、ボトルに貼付しています。
※「COOL CHOICE」とは：環境省の推進する、地球温暖化対策のための国民運動。宅配再配達削減の協力をよびかける「COOL CHOICE」できるだけ1回で受け取りませんかキャンペーン」も展開

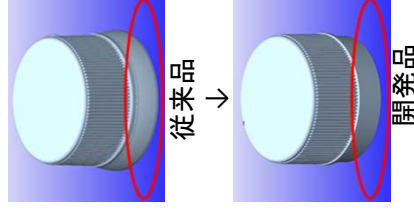
PETボトルの軽量化

2LのPETボトルについて、従来と比べて25～28%の軽量化した「らくエコボトル」を一部商品に採用しています。その軽さは国内でもトップレベルです。



炭酸キヤップの軽量化

炭酸飲料用として国内最軽量※1となるPETボトルキヤップを2018年2月より採用しています。このPETボトルキヤップは、日本クロージャー株式会社との共同開発です。これにより、PETボトルキヤップの重量は、3.25g～3.35g から3.03gへと約7～10%軽量化され、年間CO2排出量も約340トンの削減が期待できます。



※1当社調べ

植物由来原料を使用

2015年より、植物由来原料を使用した「三ツ矢サイダー」PET1.5Lを数量限定で発売しています。容器資材(ボトル、キヤップ、ラベル)全てに植物由来原料を使用し、2018年は、業界で初めてラベルに米ぬか由来の「ライスインキ」を新たに使用しました。



環境美化活動の実施

当社では、周辺の環境美化活動を推進しています。本社(墨田区吾妻橋)周辺では、毎年春秋計10回実施し、多くの社員が参加しています。また、全国22事業場のうち、20事業場でも自主的な美化活動を定期的にも実施しています。



「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

ダイドードリンコ株式会社

PETボトル含む飲料空き容器の自主回収率向上への取組み

当社は、海洋ごみ問題への対応およびプラスチック資源循環への取組みの一環として、飲料自販機への商品補充の際、併設の空き容器リサイクルBOXから空き容器を速やかに回収できる体制整備を進めています。

消費者が気持ち良く利用できる周辺美化環境を維持し、海への流出に繋がりにくいPETボトル等の散乱防止とリサイクル率の向上に努めています。

さらに、空き容器を迅速かつ確実に回収できるように、空き容器積載スペースを約2倍に拡大したボトル車輻を新たに開発しています。



【これまでの実績】

当社は自販機での売上構成が高いこともあり、高い自主回収率を誇っています。

	回収率(重量ベース)
① 当社 2017 年度自主回収率	約 85%
② 事業系ボトル回収率(2016 年業界平均)	約 39%

- ① 自社商品の国内出荷量に占める、自社自販機横の空き容器回収BOXからの回収量。
- ② PETボトルリサイクル推進協議会公表の回収率推移より。
事業系回収:スーパー・コンビニ・鉄道会社など含め、事業者自らが回収するもの。

自販機販売網を強みとして、今後も自治体や関係団体等と連携強化を図り、さらなる回収率向上に取り組んで参ります。

「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

キリンホールディングス株式会社
(キリンビバレッジ株式会社)

R100PET ボトル (再生 PET 素材 100% ボトル) の導入

<取組みの概要、(数値) 目標、実績など>

キリングループのキリンビバレッジでは、ペットボトルから再生した樹脂を再び PET ボトルに使用する「ボトル to ボトル」の取組みを推進している。

現在、PET 樹脂の再生はほとんどが「メカニカルリサイクル」の手法で行われているが、キリンビバレッジでは、この「メカニカルリサイクル」による再生樹脂を 100% 使用した R100PET ボトルを製造・販売している。

<数値目標等>

CSV コミットメントとして、「ボトル to ボトルの維持・拡大」を表明している。

<これまでの実績>

2014 年の発売開始以来、主力商品の一部に継続使用中。



※ 「キリン午後の紅茶おいしい無糖」500mL PET ボトルの一部に使用

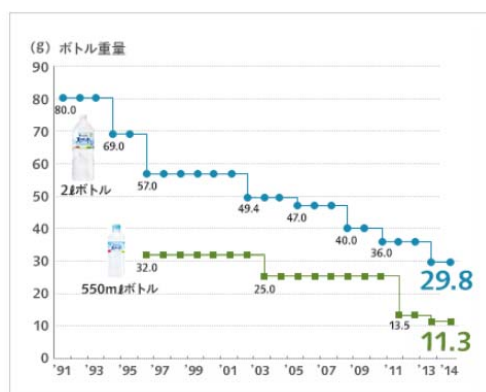
ペットボトルを多く扱う当社は、その開発において、Reduce(使う量を減らす)、Recycle(繰り返し使う)、Bio(植物由来の資源を使う)を表す、「**2R+B**」を掲げ、樹脂使用量の削減と再生素材の使用により、徹底した資源の有効利用を図りつつ、可能な範囲で石油由来原料を再生可能原料で代替していく方針で事業を推進しています。今後もプラスチックごみ問題解決への貢献を目指し、グループ全体で更なる活動推進を加速させていきます。

■ Reduce(使う量を減らす):パッケージの軽量化・薄肉化

当社はこれまで、容器素材の軽量化、薄肉化を進め、常に業界をリードしてきました。これらの開発・設計技術は、当社海外グループでも活用しています。

(1) 国産最軽量^{*}のペットボトルの導入

「環境への配慮」と「使いやすさ」を両立した容器開発に注力し、2013年、550mlに国産最軽量となる11.3gの小容量ペットボトルや、日本で始めて30g以下となった29.8gの2L大容量ペットボトルを開発・導入してきました。



(2) 国産最薄^{*}12 μ mの商品ラベルを実用化

商品ラベルにおける環境負荷低減も長年推進しており、2014年、再生PET樹脂を80%使用した、国産最薄となる12 μ mの商品ラベルを、「サントリー天然水」ブランドより導入しています。

(3) 植物由来原料を30%使用した国産最軽量となる1.85gのキャップを導入

2016年より、植物由来原料を30%使用した国産最軽量^{*}となる1.85gのキャップを導入しました。これにより、当社は、「サントリー天然水」550mlのボトル・キャップ・ラベル全てで環境に配慮したパッケージを実現しました。 ※はいずれも導入時点

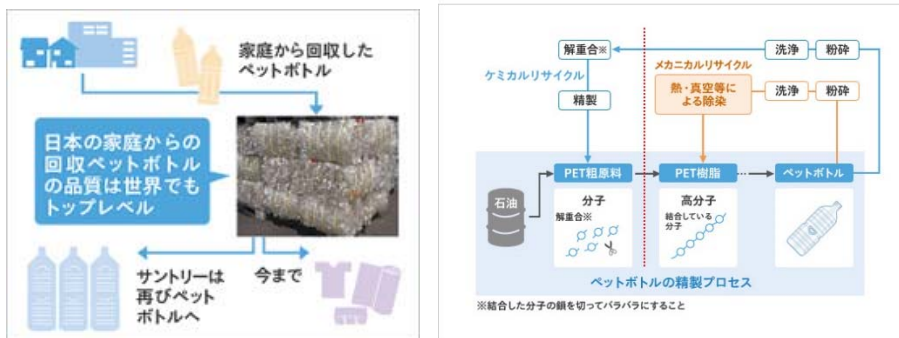
(1)(2)により、「循環型社会形成功労者環境大臣表彰」、「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」における「会長賞」を受賞しています。

■ **Recycle(繰り返し使う):メカニカルリサイクル技術による「ボトル to ボトル(BtoB)」のリサイクル**

(1) 国内初のメカニカルリサイクルによる「ボトル to ボトル(BtoB)」のリサイクルペットを導入

協栄産業(株)と協働した研究開発を進め、2011年には国内で初めてペットボトルの「BtoB メカニカルリサイクルシステムを構築。2012年には国内初メカニカルリサイクル再生 PET 樹脂 100%を使用したリピットボトルを導入しています。

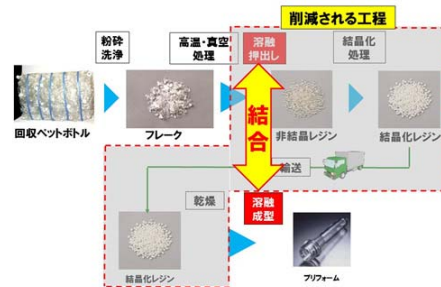
リサイクル手法によるペットボトル再生工程の違い



(2) 「FtoP ダイレクトリサイクル技術」の開発・導入に成功

ペットボトルのリサイクル製造における「FtoP ダイレクトリサイクル技術」を協栄産業(株)、イタリア・SIPA 社、オーストリア・EREMA 社と共同で開発し、2018年から導入を開始しました。これは、回収したペットボトルを粉砕・洗浄したフレーク(Flake)を高温、減圧下で一定時間処理し、溶解・ろ過後、直接プリフォーム(Preform)を製造できる技術です。プリフォーム製造までに結晶化処理や乾燥など多くの工程が必要だった従来の仕組みと比較すると、CO2 排出量を約 25%削減し、より環境負荷低減とともに、より効率的に BtoB のリサイクルペットを製造できる技術を導入しています。

FtoP成型機



■Bio(植物由来の資源を使う): 植物由来原料 100%使用ペットボトル開発に向けた研究開発推進

(1) 植物由来原料 30%使用のペットボトル導入

2013年に植物由来原料30%使用したペットボトルを「サントリー天然水」550mlに導入。これにより、国産最軽量ペットボトル(11.3g)において、石油由来原料の使用量を550mlペットボトル1本あたり約4割削減することが可能となりました。

(2) 植物由来原料 30%使用のペットボトルキャップ導入

2016年植物由来原料を30%使用した飲料用ペットボトルキャップを「サントリー 阿蘇の天然水」(550ml)に世界で初めて導入しました。



(3) 植物由来原料 100%使用ペットボトル導入に向けた実証プラント建設・研究開始

米国バイオ化学ベンチャー企業・アネロテック社と協働し、植物由来原料100%使用ペットボトルの共同開発に取り組んでいます。2016年には実証プラントを建設し、研究開発を進めています。



「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社伊藤園

環境配慮型充填システム「NS システム」による PET ボトルの軽量化 (プラスチック樹脂使用量の削減)

1. NS システムの技術的特長

当社は、環境配慮型充填方式の「NS システム」※1 を東洋製罐株式会社と共同開発し、主に主力製品である「お〜いお茶」等で採用しています。

従来の一般的な茶飲料の充填方式には、飲料を「高温にしてから充填する温水充填方式」と「常温で充填する無菌充填方式」があります。

「温水充填方式」では、ボトルに一定の耐熱性が必要だったため、ボトル本体の大幅な軽量化は困難でした。

一方、ミルク入り飲料などで採用される「常温で充填する無菌充填方式」では、ボトルを完全無菌にする必要があり、その際使用される薬剤を洗い流すために、多量の水とその排水処理が必要になります。

「NS システム」は、常温充填が可能であり、かつボトルの殺菌処理に薬剤を使用しない、独自の充填方式です。

2. PET ボトルの軽量化

「温水充填方式」と比較してボトルが高温にさらされるのは、薬剤の代わりに使用する温水での殺菌時のみのため、ボトルの耐熱性が低く抑えられ、環境配慮型の軽量 PET ボトルの採用が可能になりました。軽量化により、製品配送時のエネルギー削減にも貢献しています。

3. PET ボトルの軽量化によるプラスチック樹脂使用量削減効果

500ml ペットボトル 1 本当たり約 30%軽量化(26gが 19g)となり、7gのプラスチック樹脂量削減を達成しました。

これは年間の生産量に換算すると約 1,909 t※2 の削減となります。

※1 NS=Non-Sterilant: ノンステリラント=薬剤を使用しないの略

※2 2011 年度充填数量から算出



※キャップ・ラベルの軽量化・薄膜化も推進

関連 URL : <http://www.itoen.co.jp/csr/environment/petbottle/>

当社は上記を含む様々な取り組みにより、今後もプラスチック問題の解決に貢献してまいります。

『お茶で日本を美しく。』プロジェクトによる環境美化活動

伊藤園では、日本各地の環境保全・整備活動を支援する取り組みを実施しております。
この取り組みの中では、陸域・河川・海岸等の清掃活動も実施しており、プラスチックごみの回収に貢献しています。



鹿児島県
世界自然遺産
「屋久島」の環境保全活動

静岡県
世界文化遺産
「富士山」の保全活動

長崎県
世界文化遺産
「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の保全活動

広島県
世界文化遺産
「宮島」の保全活動

2018年度 **お茶で日本を美しく。**

伊藤園では日本各地の環境保全・整備活動を支援する取り組みを実施しております。
開始から8回目を迎えたこの活動を末広く続けていくように、全国47都道府県と協力して実施いたします。

概要

- ① 期間中のお茶ブランド全飲料製品売上の一部を日本各地の環境保全・整備活動と、自然豊かな環境づくりなどに対して、各自治体様に寄付させていただきます。
- ② 弊社社員も各地域の方と一緒に環境活動を実施いたします。

対象商品 お茶ブランド全飲料製品 **展開地域** 47都道府県 **対象業態** 全業態

対象期間 平成30年11月1日(木)～12月31日(月)



関連 URL : <http://www.itoen.co.jp/kirei/>

当社は上記を含む様々な取り組みにより、今後もプラスチック問題の解決に貢献してまいります。

2018年10月14日



プラスチック資源循環行動宣言

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～



森永乳業は、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、環境中に放出されることなく、資源として適切に循環されていくよう、以下の活動を推進します。

- ① 容器包装の環境負荷について認識し、環境配慮設計を推進します。
- ② 業界団体の活動等を通じプラスチックのリサイクルシステムの改善・最適化に協力します。
- ③ リサイクルの重要性と分別について消費者啓発を推進します。

具体的には、

- ・容器包装を環境面からの評価を行い、評価結果に基づく容器の改良を推進します。
- ・業界団体の活動を通じ、リサイクル推進の施策に積極的に協力します。
- ・商品の空き表示スペースを使用し、リサイクルの啓発を行います。
- ・リサイクルプラスチック、バイオマスプラスチックの用途拡大を検討します。
- ・事業活動を展開している海外地域における、ポイ捨て防止啓発活動に協力します。

関連URL：<https://www.morinagamilk.co.jp/csr/environment/packaging/>

連絡先：森永乳業株式会社
担当部署：CSR推進部環境対策グループ
電話番号：03-3798-0960

森永乳業株式会社

取組み：エコパッケージガイドの運用

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

エコパッケージガイドの運用

森永乳業では容器包装に関する社会的要請を踏まえ、2005年より社内規定として「エコパッケージガイド」を制定し、環境に配慮した容器設計を進めてきた。

包装の最適化に関するJIS(JIS Z 0130-2)が制定されたことを機会として平成30年に「エコパッケージガイド」を全面的に見直し、内容を改訂するとともに、新容器の採用に当たっては容器包装を構成する各部品ごとにJIS Z 0130-2に基づいたチェックを行うこととした。チェックした結果は新商品発売のために必要なその他の情報と合わせ、商品発売に関わる各部門で確認することとしている。

これらの確認においては容器包装を構成する各部品ごとに、「容積率は適切か」、「薄肉化・軽量化をする余地はないか」、「部品点数を削減出来ないか」、「使用後の洗浄や減容化に配慮しているか」、「プラスチック以外の容器への変更の余地はないか」、「再生プラ・バイオプラスチックの導入の可能性」等について確認を行い、それぞれの確認項目に対し生産工程や商品特性等を鑑み、環境面の配慮をこれ以上進めると発生する可能性のある不具合点等を明確にしている。

これにより、容器を構成する各部品の役割や環境配慮設計を進めるためのポイントが明確となった。こうした評価結果をもとに容器の改善を進めている。



森永乳業株式会社

かがやく“笑顔”のために
morinaga 森永乳業
C S R 推 進 部
環 境 対 策 グ ル ー プ
TEL 03-3798-0960

「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

プラスチック資源循環・海洋プラスチックに関する取組み事例

大塚製薬 株式会社

事例1: ペットボトル軽量化

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

参照 URL

<https://www.otsuka.co.jp/csr/environment/activity/>

2007年に「ポカリスエット」の500mlペットボトルにエコボトルを採用し、従来製品の約30% (27g→18.3g)のペット樹脂を削減しました。

現在、軽量化ボトルは、「ポカリスエットイオンウォーター」「アミノバリュー」そして「エネルゲン」にも展開しています。

ペットボトル軽量化

500ml
一本あたり **8.7g** 削減

ラベルの薄肉化

ラベルあたり **0.4g** 削減

キャップの軽量化

一個あたり **0.3g** 削減



事例2: プラスチック容器包装軽量化

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

参照 URL

<https://www.otsuka.co.jp/csr/environment/activity/>

SOYJOY は、従来製品よりプラスチック包装(ピロー包装フィルム)樹脂を 26%削減しています。カロリーメイト、ファイブミニ、ジョグメイト、エネルゲンブランドのゼリー製品では、容器変更により、樹脂使用量を 13%削減しました。

SOYJOY
ピロー包装フィルムの減量化

一本あたり **26%** 削減



カロリーメイト、ファイブミニなどのゼリー製品
プラスチック樹脂の軽量化

一個あたり **13%** 削減



事例3： 使用者の利便性に加え廃棄物削減にもつなげる製品開発

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

参照 URL

<https://otsuka.disclosure.site/ja/themes/23#37>

抗精神病薬「エビリファイ持続性水懸筋注用(LAI)」では、流通過程での耐衝撃性、医療従事者の取り出しやすさ、さらには廃棄性への配慮等、さまざまな工夫を取り入れたパッケージを採用しています。パッケージの総合的・多角的な優秀性が認められ、「2016 ジャパンパッケージングコンペティション」で薬品部門賞を受賞しました。



大塚製薬：「エビリファイ持続性水懸筋注用」

事例4： 地域と連携した「国際海岸クリーンアップ活動」への参加

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

参照 URL

<https://otsuka.disclosure.site/ja/themes/22#148>

社員ボランティアで構成する「大塚製薬環境クラブ」には、徳島在住のグループ社員も多く参加し、自治体等と連携・協力しながら、海岸清掃の実施、清掃時のゴミデータの収集・提供を通じた「国際海岸クリーンアップ活動」(主催：一般社団法人 JEAN)への参加等積極的な活動を進めています。この取り組みが評価され、「とくしま環境県民会議※表彰」を受けました。



「大塚製薬環境クラブ」

事例5: 「あどふと・エコスクール」の活動

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

参照 URL

<https://otsuka.disclosure.site/ja/themes/32>

大塚製薬、大塚化学、大鵬薬品は地域の学校と協定を結び、「あどふと・エコスクール」の活動に 2007 年から継続して参画しています。「あどふと」とは英語で養子縁組を意味し、グループ 3 社が里親となり地域の学校を養子として環境学習活動を支援する取り組みであることを表しています。2016～2018 年度の 3 年計画で徳島市内の中学校への活動支援を行っています。2016 年度は、「学校からの排出ごみゼロを目指す」取り組みの初年度として、「環境学習会」を開催して、ゴミ問題等についての学習機会を提供しました。またごみゼロに向けて先進的な取り組みを行う徳島県上勝町の見学等を行いました。これらの学習の成果は、「第 10 回とくしま環境学習フォーラム」および、大鵬薬品で開催した「『地域・地球』環境活動セミナー」にて発表しました。「あどふと・エコスクール」が生徒たちにとって身近な環境問題に目を向けるきっかけになることを期待しています。

お問い合わせ先 : <https://www.otsuka.co.jp/contacts/>



2018年10月29日

「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組みよう～

日本コカ・コーラ株式会社

コカ・コーラシステムは、容器の課題に覚悟をもって取り組みます。「容器の2030年ビジョン」をグローバルに掲げ、まず、2030年までに販売した量と同等量のPETボトルや缶を回収することに取り組みます。回収する容器は自社・他社を問いません。また、容器の原材料としてリサイクル素材の採用を進めます。

具体的には、2030年までに日本国内においてPETボトル一本あたりの含有率として、平均50%以上を目指します。現在日本で使用しているほとんどの容器がリサイクル可能ですが、2025年までには100%をリサイクル可能とすることにも取り組みます。

廃棄物ゼロ社会の実現は、コカ・コーラシステムが単独で成し遂げられるものではなく、また、時間や労力を要します。しかしながら、こうした社会の実現は極めて重要であり、そのための行動を着実に行う必要があるという認識のもと取り組んで参ります。

これらの継続的な活動をさらに推進すべく、日本コカ・コーラ株式会社は2018年1月には、2030年を目標年とする、容器の新たなビジョン（「容器の2030年ビジョン」）を発表しました。「容器の2030年ビジョン」は、2018年1月19日に米国のザ コカ・コーラ カンパニーが発表した、廃棄物ゼロ社会の実現を目指すグローバルプラン¹に基づくものです。

「容器の2030年ビジョン」の達成に向けて、日本のコカ・コーラシステムは以下の3つの柱から成る活動に継続的に取り組んでまいります。

¹ <http://www.cocacola.co.jp/press-center/news-20180119-21>

- PET ボトルの原材料として、可能な限り、枯渇性資源である石油由来の原材料を使用しません。原材料としてリサイクル PET あるいは植物由来 PET の採用を進め、PET ボトル一本あたりの含有率として、少なくとも 50%以上 を目指します。
- 政府や自治体、飲料業界、地域社会と協働し、国内の PET ボトルと缶の回収・リサイクル率の更なる向上に貢献するべく、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築とその維持に取り組みます。また、国内で販売した自社製品と同等量の容器の回収・リサイクルを目指します。
- 清掃活動を通じて、地域の美化に取り組みます。また、容器ゴミ、海洋ゴミに関する啓発活動に積極的に参画していきます。

関連 URL: <https://www.cocacola.co.jp/sustainability/report>

連絡先

担当部署：広報・パブリックアフェアーズ本部

電話番号：03-5466-8104



「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

◆ UCC上島珈琲株式会社

都庁舎内店舗における紙ストローの試行に参加

UCC上島珈琲株式会社は、東京都が使い捨てプラスチックの削減について考える取り組みの一つとして実施の「都庁舎内店舗でプラスチックストローに代わって紙ストローを使用」に、2018年10月1日より参加しています。

また、UCCグループのコーヒー関連機器製造販売会社であるラッキーコーヒーマシン株式会社では、環境への配慮のニーズの高まりを受け、10月より紙ストローの取扱いを開始しました。

プラスチックストローは、昨今、欧米諸国で問題になっており、PETボトル容器のようにリサイクルが進んでいません。

今後もこのような、私たちにできる環境負荷低減となる取り組みや、私たち一人ひとりが、環境問題を考えるきっかけとなる取り組みにチャレンジしていきます。

◆ 実施店舗と1日平均の紙ストロー使用本数

第一本庁舎1階

- ・ HOKUTO (ほくと) 300本/日平均
- ・ MINAMI (みなみ) 70本/日平均



(使用しているストロー)

連絡先：UCC上島珈琲株式会社

担当部署：品質保証室 CSR担当

2018年11月15日
雪印メグミルク株式会社



「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

雪印メグミルク株式会社では、プラスチックが海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、限りある資源として適切に循環されていくよう、製造工程から排出されるプラスチックのリサイクルに取り組んでまいります。

弊社野田工場のヨーグルトの充填工程で、カップの形成に伴い発生するポリスチレンシートの端材について、従来まではアルミ箔が付着していたため焼却処理となっていました。これにより年間27tのポリスチレンがリサイクルされる見込みです。

ポリスチレンシートは細かく粉砕され、洗淨・脱水工程でアルミ箔や不純物を取り除いた後、高温で溶融して成型機でペレットという粒状の状態にします。

ペレットは再加工されて車のおもちゃのボディ部分やプラスチック製貯金箱となりリサイクルされます。



連絡先： 〒160-8575 東京都新宿区四谷本塩町5番1号

担当部署： 雪印メグミルク株式会社 CSR部 環境グループ

電話番号： 03-3226-2408

以上



2018年11月15日

「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

農業用フィルムリサイクル促進協会

使用済み農業用フィルムの資源循環の取組

農業用フィルムリサイクル促進協会は、従来より使用済み農業用フィルム（農ビ・農P0）完全循環システム構築をめざして活動している。今回の海洋プラスチック、中国プラスチック屑輸入禁止等による廃棄物の問題対応に繋がる従来からの活動を継続し、施設園芸等の発展に貢献する。

- 使用済み農業用フィルムの100%回収をめざして啓発活動、優良事例の紹介等により農業者・協議会を支援する。
- 回収された使用済み農業用フィルムのスムーズな処理及びリサイクルされるよう低コストで採算性があり、且つ、持続可能な国内循環モデルの調査、開発及び普及に取り組む。

連絡先：農業用フィルムリサイクル促進協会

TEL：03-5757-2051

プラスチック資源循環アクション宣言

私たち日清食品グループは、プラスチックに起因する資源、海洋ゴミ、地球温暖化などの課題に対して、私たちが提供する製品を通じてこれらの課題解決に取り組んでまいります。

私たちは2008年に、地球環境のため、主力製品であるカップヌードルの容器を石油由来のプラスチック製容器から再生可能資源である紙製容器へ変更しました。限りある資源を有効活用し持続可能な循環型社会の実現に向け、今後は更に、バイオマス資源（紙、バイオマスプラスチック、生分解性プラスチック）の適用拡大も図ってまいります。

これまでの取り組み

2008年「ECOカップ」の誕生

- + 有限資源である石油由来の **プラスチック** 製容器から
- + 再生可能資源の **紙** 製容器へ変更

「地球のために (For Ecology)」
 「みんなのために (For Customer)」
 「おいしさのために (For Originality)」



これからの取り組み

容器包装をさらに ECO化

- + バイオマス資源で **資源、地球温暖化問題** に対応

バイオマス 資源の適用拡大
 (紙、バイオマスプラスチック、生分解性プラスチック)





「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社 明治

私たちは、海洋プラスチック問題など地球環境への影響を踏まえ、取引先とともにプラスチック資源循環に資する、以下の活動に引き続き積極的に取り組みます。

- ① プラスチック製容器包装について、品質保持機能などその有用性を生かしつつ、可能な限りプラスチック使用量の削減が図れるよう商品設計を見直します。
例えば、プラスチック製容器および PET ボトルの軽量化・薄肉化の促進、プラスチック製容器から紙製容器への変更などに取り組みます。
- ② プラスチック製容器包装の素材として、植物由来の素材、リサイクルし易い素材、リサイクル素材など環境に配慮した素材の使用を推進していきます。
また、生分解性プラスチックの使用を検討します。
- ③ 生産過程において発生する廃棄プラスチックは、再生処理事業者を通じて再生品へのリサイクルを促進します。
- ④ 物流過程においてもプラスチックの使用量削減およびリサイクルに努めます。
例えば、クレート(商品配送用のプラスチック製通い箱)の段ボールへの変更などに取り組みます。
- ⑤ 河川や海岸などの清掃活動を通じて、地域の環境美化に取り組むとともに、海洋に流入するプラスチックごみの低減を図ることで、海洋環境の保全に努めます。

※関連 URL: <https://www.meiji.co.jp/csr/harmony/biodiversity/>

[2017 年度の事業所・グループ会社における生物多様性の保全活動]

連絡先: 株式会社 明治
担当部署: 明治 お客様相談センター
電話番号: 0120-598-369

取り組み事例の紹介〔1〕

<明治プロビオヨーグルト ドリンクタイプ>



* キャップ部分の重量を 10%削減しました。
さらに、PET ボトル部分の軽量化を進め、PET 樹脂の使用量を 1 本当たり最大で約 24%削減しました。

<きのこの山・たけのこの里>



* 内装袋のフィルムの接着層を 5 μ m 薄肉化により重量を約 9%削減しました。

<明治 エッセルスーパーカップ>



* カップのインナーシールの薄肉化により重量を約 27%削減しました。

取り組み事例の紹介〔2〕

<プチガム>



* 容器の素材をプラスチック製から紙製に変更し、内容量を変えずに容器のコンパクト化により重量を約44%削減しました。
さらに、紙製容器の小型化を図りました。

<廃棄プラスチックのリサイクル事例>

ビンキャップ



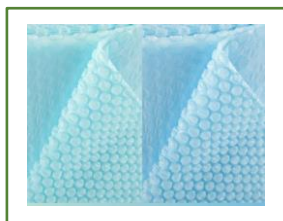
ストレッチフィルム



ヨーグルト容器



インナーシール



緩衝材など



ハンガーなど



再生ペレットなど

* 各工場が発生する廃棄プラスチックについては、性状・素材等により夫々に適した再生品にリサイクルされています。

2018年11月19日

「プラスチック資源循環アクション宣言」
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～



農業用生分解性資材普及会（A B A）

使用済みプラスチック排出削減へ
農業用生分解性資材の利用促進 活動宣言

農業用生分解性資材普及会（A B A）は、バイオプラスチックの一種で、土の中に存在する微生物の働きにより水と二酸化炭素に分解される生分解性プラスチックを使用した農業用資材の開発・利用・普及を図ることを目的として2004年に設立した団体です。

現在、生分解性プラスチックの特質に合致する農業用マルチフィルムの利用促進を中心に、原料や製品製造にかかわる会員14社、農業関連6団体で活動をしています。

土の表面を覆うマルチフィルムは従来、ポリエチレン製が多数を占め、栽培で使用した後は回収と産業廃棄物処理が必要ですが、生分解性マルチフィルムは使用後にすき込み（耕うん）することで土の中の微生物が分解するため、廃棄処理が不要になり、使用済みプラスチックの排出量削減に役立つ資材です。

本会は、不法投棄や海洋流出などによる環境問題の解決に貢献するため、使用済みプラスチックの排出削減になる生分解性マルチフィルムをはじめ農業用生分解性資材の一層の利用を促進する次の活動に取り組めます。

1. 生分解性マルチの利用促進に向けた取り組み

- ・海洋への流出など使用済みプラスチックによる環境汚染問題の対策となることを含めて生分解性マルチフィルムの利点や有用性を農業者や資材流通業者に理解してもらう取り組み
- ・生分解性マルチを農業経営に採り入れやすくするため、使い勝手や機能を向上させる技術開発の取り組み

2. 生分解性マルチの特性を有効に活用するための取り組み
 - ・土の中で水と二酸化炭素に分解する生分解性マルチの特性を生かすため、栽培圃場以外への飛散流出を防止し、使用後は十分なすき込み（耕うん）を実施するよう農業者に正しい使い方の啓発をはかる取り組み
3. 生分解性マルチ・プラスチックの利用場면을増やす取り組み
 - ・生分解性マルチを効果的に使用できる作物・作型の情報提供や、農業分野における生分解性プラスチックの新たな利用場面の拡大に向けた用途・製品開発の取り組み
4. 生分解性マルチへのカーボンニュートラルな原料導入に向けた取り組み
 - ・生分解性マルチに使用できるカーボンニュートラル（バイオマス由来など）原料樹脂の調査研究開発の取り組み
5. 国際協力の取り組み
 - ・海外からの生分解性マルチ使用に関する要請に対する積極的な支援の取り組み

農業用生分解性資材普及会 事務局
（日本農民新聞社 園芸情報センター内）
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-21
電話：03-3233-3633／FAX：03-3233-3666
<http://www.aba-seibunkai.com>



「プラスチック資源循環アクション宣言」

～お客様とともに この街に、あってよかった。～

株式会社フジ

フジは、国内外で海洋プラスチックごみが大きな問題となるなか、プラスチックごみの発生抑制・リサイクル促進に積極的に取り組んでまいります。

環境理念

フジは、「生活者の豊かな暮らしづくりを提案し、支援し、地域社会の発展に貢献する」という理念のもと、企業市民として環境保全活動を積極的に推進し環境調和型企业を目指し、豊かな暮らしづくりの推進に努めます。

【店頭での資源回収】

全店の店頭で回収ボックスを設置し、使用済み食品トレーや牛乳パックなどリサイクル可能な資源回収を行っています。お買い物時にいつでも気軽にリサイクル活動に協力できる場所として、多くのお客様にご利用いただいています。

また一部店舗では、総合資源回収スペースとして「フジECOステーション」を設置しています。ペットボトルの破碎、圧縮処理による資源回収により利便性の向上を図り、さらなるリサイクル推進に取り組んでいます。



2017年度回収実績

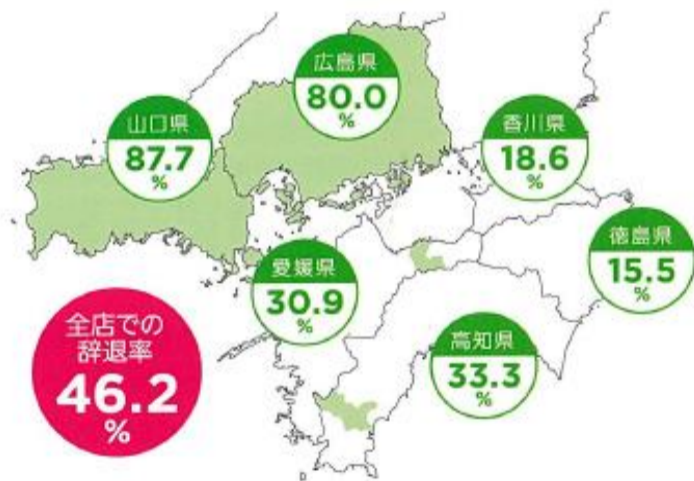


【レジ袋の使用量削減】

お客様のご理解とご協力をいただきながら「マイバッグ運動（レジ袋削減運動）」に取り組んでおり、プラスチック製品の発生抑制だけでなく地球温暖化の原因といわれるCO₂排出量の削減に努めています。

また、広島県、山口県、愛媛県新居浜市、高知県四万十市ではレジ袋の無料配布を中止しています。これらの地域では自治体と協定を結んで削減に取り組んでおり、レジ袋販売収益の一部を寄付することで地域の環境保全に役立てていただいています。

県別レジ袋辞退率(2017年度)



レジ袋辞退率とレジ袋削減数の推移



【ビーチクリーン活動】

毎年6月、従業員参加による海岸の清掃・調査を行っています。発泡スチロールやビニール袋、養殖用プラスチック管など多くの海洋ゴミを回収しています。



「鮮度保持容器で、ご家庭に鮮度を提供しながら 樹脂量の削減も」

ヤマサ醤油株式会社

ヤマサ醤油(株)は、開封後も醤油が酸化しにくい「鮮度保持容器」で2009年に「鮮度の一滴」を発売し、使い切るまでしょうゆの鮮度を保つという機能を提供し、かつ従来容器よりも樹脂量を減少させました。



また、ご家庭内での醤油使用量の変化に合わせた容量の変更・商品の使い勝手向上を目的に、継続的に容器の改良を行い、それに合わせて樹脂量も減少させていきました。



ヤマサ醤油(株)は、醤油を使い切るまでの鮮度の提供に合わせて、環境負荷の低減も考慮し、樹脂量の削減に努めてまいります。

お問合せ先: ヤマサ醤油株式会社 営業本部 企画室
電話番号: 03-3668-8556
URL: <https://www.yamasa.com/>



「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

日本マクドナルド株式会社

日本マクドナルド株式会社は、日本で45年以上事業活動を行っており、現在全国約2900店舗において14万人以上のクルーが働き、毎年約14億人以上のお客様にご来店いただいております。日本のみならず、世界最大級の外食企業として、マクドナルドは世界中の社会的課題や環境問題に取り組み、マクドナルドを支えてくださっている地域の皆様にお返しする責任があると考えています。私たちのグローバルな規模を活用することで、より持続可能な社会の実現に向けた変化をもたらすことを目指しています。

現在、プラスチックごみの処理に関して非常に高い関心が集まっており、3R（Reduce：削減、Reuse：再利用、Recycle：再生）の重要性が再認識されています。多くのファミリーのお客様にご利用いただいているマクドナルドでは、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の活動に取り組んでいます。

（Reduce）

・「ほんのハッピーセット」:

2018年7月より、通常はプラスチックおもちゃが付いてくるハッピーセットに、紙製の絵本と図鑑も選択肢に加わった新プログラム。

・「プラスチックカップから紙カップに変更」:

2016年より、アイスコーヒーのカップをプラスチックから紙に変更し、2018年からはFSC認証紙を使用。



・「プラスチックバッグの削減」:

持ち帰り用袋は紙袋を推奨し、プラスチックバッグは必要に応じてご提供。
また、2018年より、1ドリンクのみを入れるプラスチックバッグを導入。



・「お客様のリクエストに応じた商品のご提供」

飲み物に添える砂糖やミルクなどのコンディメントが必要かどうかお客様にお伺いした上で必要な量だけご提供。

(Recycle)

・「ハッピーりぼーン」:

2018年2月から5月の間、遊ばなくなったハッピーセットのプラスチックおもちゃを全国の店頭で回収し、集めたおもちゃでできたりサイクル樹脂を10%含む店舗用リサイクルトレイを製造したプロジェクト。2019年も継続して実施していく予定。



マクドナルドは、「地球のことを考えて行動する」という理念に基づき、持続可能な社会の達成に寄与する様々な取り組みをお客様、従業員、パートナーの皆様とともに実行しております。今後とも上記以外の活動も積極的に行い、地球環境に貢献してまいります。

連絡先

担当部署：コミュニケーション&CR本部 広報部

電話番号：03-6911-5710



2018 年11月20日

「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～



日本肥料アンモニア協会
全国複合肥料工業会

海洋漂着プラスチックを巡る肥料業界の対応について

私ども団体の取り扱い品目、特に化学肥料については申し上げるまでもなく、農業生産に欠くことの出来ない基礎的な資材であり、我が国の農業及び国民生活に対して多大な貢献を果たしてきた。

その中でも速効性肥料を、プラスチック類を用いて物理的に加工した被覆肥料は、機能性肥料として主力商品であり、その特長は、農家の要望に合わせて肥効特性が適切にコントロールされていることにある。1970年代の上市以降、現在まで様々なタイプが品揃えされており、被覆肥料及び被覆肥料を配合した複合肥料は日本の農業に欠かせない肥料として、多くの肥料メーカーが生産出荷している。

被覆肥料の特長として、溶出コントロール性、高成分、吸湿性が極めて低いことなど肥効特性も含めて、他の機能性肥料では機能面、コスト面で代替できない状況となっている。現在では、本機能が評価され、被覆肥料が使用されている水田の面積は約6割を占め、我が国の農業にとって重要、かつ不可欠な品目と位置付けられ、今後益々需要が増えると予測している。

従来の速効性肥料では、作物へ基肥・追肥と数回に分けて施肥していたが、数回の施肥作業は農家へ負担を強いていた。被覆肥料は、肥料の利用効率が速効性肥料に比べて格段に高く、この誕生により全量基肥施肥あるいは施肥回数の削減を可能とした。施肥の省力化は、農家の方から高い評価を得てきた。大規模農家においては、経営の効率化に、その他高齢農家においても夏場の施肥の省力化により体力、健康面でも支持されてきた。農水省においても、施肥量を減らすことが出来るので肥料資源が有効活用されること、圃場系外への肥料成分の流出が抑制され水系富栄養化が抑制されること及び温暖化原因のN₂Oガス発生が抑制されることなど、環境に配慮した農業が可能と位置付けられて来た。

弊会は肥料の殻の問題として、プラスチック含有被覆材を環境中に排出することを抑制するため、肥料袋に注意書きの記載やチラシの配布などにより改善を進めてきた。加えて各メーカーも、分解性のある素材への転換を図ってきた。然しながら、海洋漂着プラスチック問題は国際的に大きな問題となっており、業界全体で一層の対策を講じる必要があると考える。

◎対応策

肥料業界として、以下の基本的な取組み方針を表明する

- ① 従来から被覆肥料殻の農耕地からの流亡防止のため、包材などへの記載などにより農家へ注意喚起を行ってきたが、流通・農家との協力を深め、継続して一層の強化徹底を図る。
- ② 被覆肥料殻の環境中での分解性について、更なる向上を目指し、併せて被覆樹脂使用量の削減に向けた技術開発を継続して進める。
- ③ 他の機能性肥料の活用場面の拡大などを推進する。

以上

連絡先：日本肥料アンモニア協会

電話番号：(03)-5297-2210

2018年11月16日

「プラスチック資源循環アクション宣言」
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

(一社) 日本植物油協会

～プラスチック資源の循環への積極的な貢献～

プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、そのリスクを低減し、資源として適切に循環されていくよう、製品使用後廃棄する際の環境負荷低減を図るために、今後とも容器包装のプラスチック使用量の削減をはじめ、プラスチックのリサイクルの推進に向けた各種対策に積極的に取り組んでまいります。

「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

日清オイリオグループ株式会社

日清オイリオグループは、かけがえのない地球を次の世代に引き継ぐために、「植物のチカラ®」を最大限に引き出し、環境にやさしい企業活動に取り組めます。

日清オイリオグループは、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、ごみとして環境中に放出されるリスクを低減し、資源として適切に循環されていくよう、

- ・生産工程でのゼロエミッションの継続
 - ・環境負荷の少ない容器・包装の開発
- に引き続き取り組んでまいります。

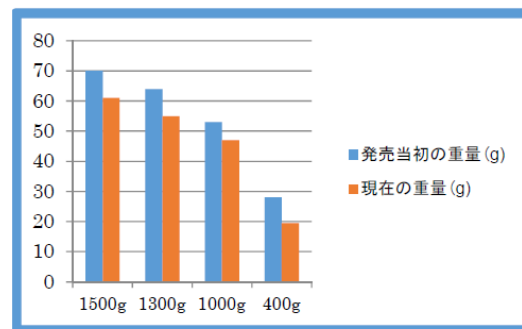
〔取り組み実績〕

- ・製品使用後廃棄する際の環境負荷低減のために、容器包装のプラスチック使用量の削減に取り組んでいます

＜実績例＞

1500g 丸形ボトル	： 13%削減
1300g 丸形ボトル	： 14%削減
1000g ボトル	： 11%削減
400gPET ボトル	： 30%削減

※発売当初からの削減割合



- ・廃プラスチックを含め、生産工程での廃棄物再資源化率 99%以上を継続しています

コーポレートレポート URL

<http://www.nisshin-oillio.com/company/csr/report.html>

連絡先

担当部署：コーポレートコミュニケーション部 広報・IR 課

電話番号：03-3206-5109

「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社 J-オイルミルズ

J-オイルミルズは、容器包装に係る環境負荷を低減する取り組みとして、包材の改善や軽量化、また廃棄時の減容化や分別の容易化など、長年にわたり積極的に取り組んでまいりました。

これまでの取り組み例

2014 E14 U1 400gUDエコパウチ バイオマス仕様

原料のさとうきび由来原料PETに蒸着バリアを施しパウチに使用。

- 第39回本下賞
新規創出部門
- 日本パッケージングコンテスト
食品包装部門賞



2007 E07 U1 1000gエコパックス

食用油容器として初めて「エコマーク商品」として認定された紙パックを採用。外箱は再生紙で解体容易設計、内袋は小さくたんで捨てられます。「お助け円み」で持ちやすく、エンボス加工で滑りやすさを確保。さらに印刷は大豆インクを使用。

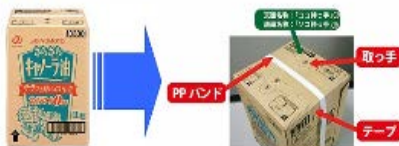
- 日本パッケージングコンテスト
ジャパンスター賞、
経済産業大臣賞
- 第31回本下賞
改善合理化部門
- ジャパンパッケージングコンペティション
リニューアル部門賞
- 食糧新聞社賞
優秀機械・資材賞



2011 E11 U1 8kg及び15kgUDバッグ・イン・ボックス(UDBIB)®

持ちやすさ(柔らかいPPバンド)、注ぎやすさ(コップ持ち・ソコ持ちの取っ手穴付き)、廃棄しやすさ(廃棄しやすいテープ)を採用。

- 日本パッケージングコンテスト
アクセシブルデザイン賞



当社 HP より抜粋 <https://ir.j-oil.com/csr/Environment/003.html>

今後も、新素材や新技術の導入(植物由来のバイオマスプラスチックなど)、プラスチック容器包材の改善(軽量化、薄肉化など)、商品を発売する際の環境影響を評価する仕組みの導入などに取り組んでまいります。

平成 30 年 11 月 20 日

「プラスチック資源循環アクション宣言」
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社エフピコ

「プラスチック資源循環アクション宣言」に対する弊社の考え方を以下に述べさせていただきます。

記

第四次循環型社会形成推進基本計画で掲げられた「プラスチック資源循環戦略」に則って、具体的な取り組みとしての「未利用プラスチックをはじめとする使用済みプラスチック資源の徹底的かつ効果的・効率的な回収・再生利用」について、当社は以下のように考えております。

まず、昨今の多方面で報道されている海洋プラスチックごみ問題については、ポイ捨てをはじめとする廃棄物管理の問題として捉え、脱プラスチックや脱石化由来（バイオマスプラスチック化）の動きとはきちんと分けて考え、全てのステークホルダーに理解を求めて参ります。

【海洋プラスチックごみ問題】

- ・原因は「ポイ捨て」によるため、廃棄物の管理を徹底するよう求めて参ります。
- ・容器メーカーとして製品のリデュースの推進を加速させながら、本来の容器包装の機能（中身の保護等）を満たすことも重要と伝えて参ります。
- ・リサイクル手法については、単一素材は材料リサイクルに適していると伝えて参ります。
（すでに、発泡トレイ、PET ボトルについては材料リサイクルされ循環しております。）

【脱石化由来プラスチック】

- ・バイオマスプラスチックへのシフトは、石化由来への代替であり、CO₂ の問題であり、海洋ごみ問題の解決とは意味が違うことをきちんと伝えて参ります。
- ・バイオマスプラスチックを安定的・継続的に供給する上で、可食原料を由来とするのであれば食糧（穀物等）への影響を十分に考慮する必要があることを伝えて参ります。
- ・生分解性プラスチックについては、分別・識別が難しい問題とコンポスト化施設が必要であるという課題を解決する必要があることを伝えて参ります。
- ・食品ロス削減が叫ばれる昨今、食品のロングライフ化に対して、容器包装に高機能化が

求められており、それに応えるべく容器包装は複合素材化が進んでおります。その複合素材については材料リサイクルには向かないことを理解していただくよう求めて参ります。

【エネルギー有効利用】

- ・複合素材については、資源の乏しい日本であるからこそ効率性を高めた熱回収（エネルギーリカバリー）として有効利用できることを伝えて参ります。
- ・各自治体においては、住民の分別排出が習慣化し、燃えるごみが焼却炉で十分に燃焼せずに助燃材として重油等の投入が現実的に行われていると聞きます。廃プラスチックはもともと石油製品であり、一度はプラスチック製品として機能（役割）を果たした後で、廃プラスチックを助燃材として焼却炉に投入し、エネルギーリカバリーすることが有効であることを理解して頂くよう求めて参ります。
- ・エネルギーリカバリーについて、ごみ発電等の高効率化を目指すことは言うまでもありません。

当社は今後も事業活動を通じて様々なステークホルダーに対して「プラスチック資源循環戦略・海洋プラスチック問題に資する取り組み」を発信して参ります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



以上

エフピコ方式のリサイクルの消費者普及啓発活動について



<取組みの概要>

1992年より全国に展開するリサイクル工場を開放し、積極的に見学者を受け入れ、リサイクルの啓発普及活動を行っている。

第四次循環型社会形成推進基本計画で掲げられた「プラスチック資源循環戦略」に則って、具体的な取り組みとして「未利用プラスチックをはじめとする使用済みプラスチック資源の徹底かつ効果的・効率的な回収・再生利用」に従って、当社は、海洋プラスチックごみ問題については**廃棄物管理の問題として捉え**、脱プラスチックや脱石化由来の動きとはきちんと分けて考え、一般消費者に理解を求めていく。具体的には、以下の通り。

【海洋プラスチックごみ問題】

- ・原因は「ポイ捨て」によるため、廃棄物の管理を徹底するよう求める。
- ・容器メーカーとして製品のリデュースを推進しながら、本来の容器包装の機能(中身の保護等)を満たすことも重要と伝えていく。
- ・リサイクル手法については、**単一素材は材料リサイクルに適している**と伝えていく。
(すでに、発泡トレイ、PET ボトルについては材料リサイクルされている)

【脱石化由来プラスチック】

- ・バイオマスプラスチックへのシフトは、石化由来への代替のことであり、CO2の問題である。海洋ごみ問題を解決することとは違うことをきちんと伝える。
- ・バイオマスプラスチックを安定的・継続的に供給する上で、可食原料を由来とするのであれば食糧(穀物)への影響を十分に考慮する必要があることを伝える。
- ・生分解性プラスチックについては、分別・識別の問題とコンポスト化施設の問題を解決する必要があることを伝える。
- ・食品ロス削減が叫ばれる昨今、食品のロングライフ化に対し、容器包装に高機能化が求められており、それに応えるべく複合素材については材料リサイクルには向かないことを理解するよう求めていく。
- ・その**複合素材については、資源の乏しい日本であるからこそ効率性を高めた熱回収(エネルギーリカバリー)として有効利用できる**ことを伝える。



「トレーtoトレー」のリサイクルによる廃プラスチックの削減

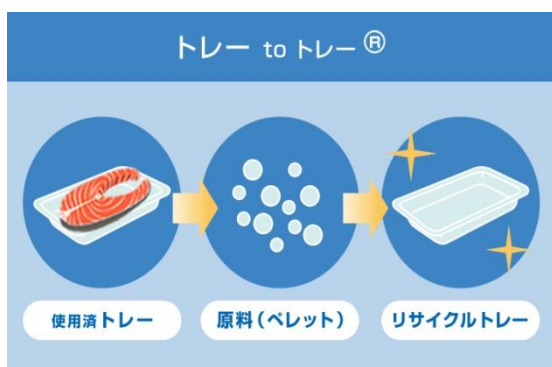


<取組みの概要>

1990 年からスーパーマーケット等の店頭で回収した使用済み発泡スチロール製トレーを自社のリサイクル工場で原料に戻し、食品トレーに再生している。（「トレーto トレー」のリサイクル）

消費者・スーパーなどの小売店・包材問屋・エフピコの 4 者が一体となった「エフピコ方式のリサイクル」システムは、国民全員参加型のリサイクルシステムとして定着。

全国約 9,200 拠点（2018 年 3 月）に発泡スチロール製トレーの回収ボックスが設置されており、使用済みトレーを使い捨てする事なくリサイクル循環することでプラゴミ海洋流出の抑制を進めている。



<数値目標等>

回収量拡大: 発泡スチロール製トレー及び透明容器

年間 1 万 t（2020 年度目標）

<これまでの実績>

2017 年度 発泡スチロール製トレー及び透明容器回収量: 8,400t/年



「ボトル to トレー」のリサイクルによる廃プラスチックの削減



<取組みの概要>

2011 年から使用済み PET ボトルを回収し、自社のリサイクル工場で原料化し透明容器(エコ APET)に再生している。

エフピコグループとして年間 5 万トンの PET 素材の再生原料を生産している。

使用済み PET ボトルをごみとせず、効率的にリサイクルを行う事で、廃プラスチックの削減を進めている。



※フレーク：PETボトルを粉碎し、洗浄・乾燥させた破片状の原料

<数値目標等>

回収量拡大:PET ボトル **5,000t/月(2020 年度目標)**

<これまでの実績>

2017 年度 PET ボトル回収量:約 47,000t/年



トレーリサイクルの消費者普及啓発活動



<取組みの概要>

1992 年より全国に展開するリサイクル工場を開放し、積極的に見学者を受け入れ、リサイクルの啓発普及活動を行っている。

これまでに累計 45 万人を越える方々にご見学頂き、活発なコミュニケーションを継続している。また、全国各地での講演会・展示会等へも積極的に参加し循環型リサイクルへの参加・ご協力を促している。

【工場見学風景】



【展示会風景】



<数値目標等>

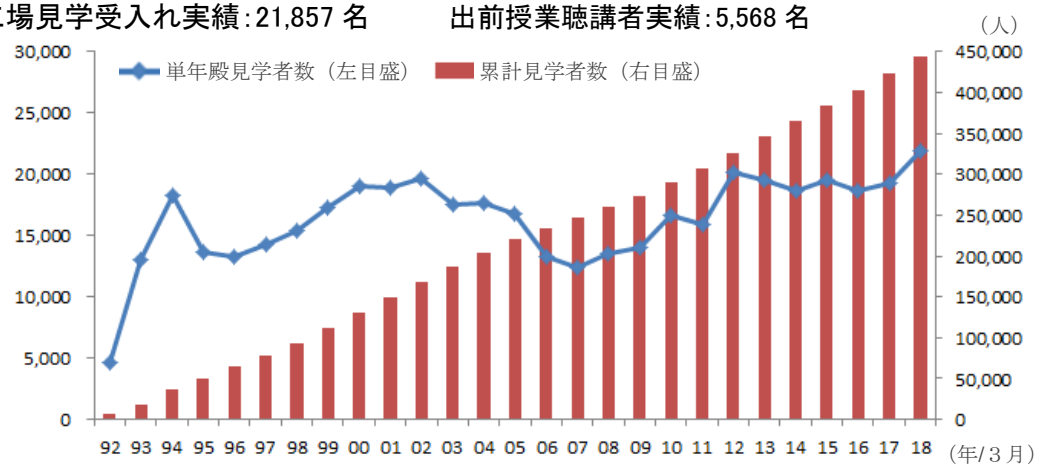
消費者団体の方々とのリサイクル協力体制を強固にするために、工場見学者数及び教育機関への出前授業や各種講演会、展示会等での外部講演者数について、**2020 年度までに 23,000 人/年の達成**を目指す。

<これまでの実績>

2017 年度

工場見学受入れ実績: 21,857 名

出前授業聴講者実績: 5,568 名



トレーリサイクルの消費者普及啓発活動



<取組みの概要>

弊社のエコ製品である「エコトレー」及び「エコ APET」への変更に伴う CO₂ 削減効果を、全国のスーパーマーケットをはじめとする小売店舗の掲示板にポスターで掲示することで、小売店舗での環境活動の見える化を地域住民へ対して行っている。



<数値目標等>

CO₂ 削減効果ポスターを**2018年度に100社掲示達成**を目指す。

<これまでの実績>

2018年6月末時点で、81社4, 343店舗に設置している。

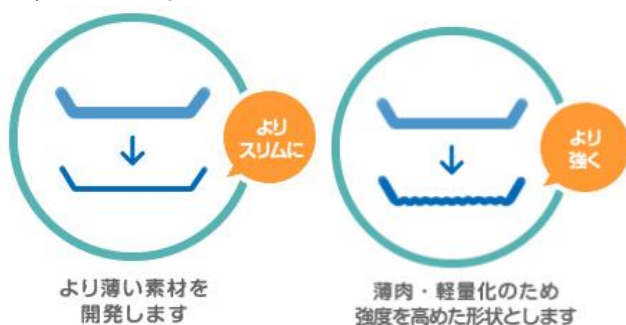
食品容器の薄肉化による廃プラスチックの削減



<取組みの概要>

プラスチック製食品容器の環境配慮設計を推進し、製品の薄肉化を進めている。素材や発泡倍率、形状等を変更し品質や機能性を損なう事なく、プラスチック使用量の削減に努めている。

～軽量化・形状～

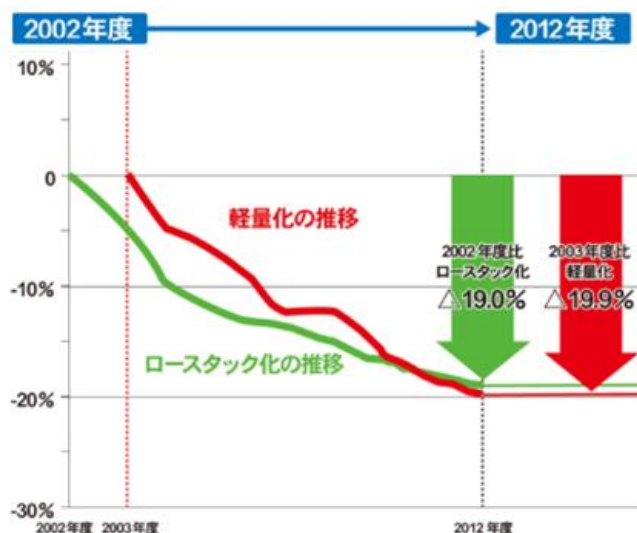


<数値目標>

発泡倍率・薄肉化等の技術開発及び素材転換により、販売する食品容器全体の平均重量を対象として **2020年までに2013年度に対して5%の軽量化・薄肉化**に取り組む。

<これまでの実績>

製品全体の実績では2003年度～2012年度で約20%の軽量化を達成。



「二軸延伸PET」技術によるPET樹脂の省資源化

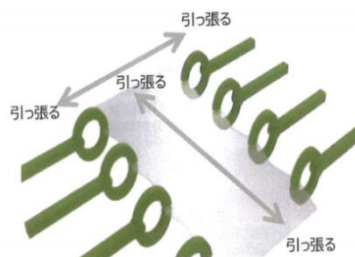


<取組みの概要>

弁当や惣菜を中心とした透明蓋付容器(以下透明容器)の主な原料は「OPS(二軸延伸ポリスチレン)」と「PET」があり、OPSは強度、耐熱性に優れるものの、耐油性に劣り、一方PETは、透明性・耐油性に優れているが、耐熱性が劣るため電子レンジで加熱することができない弱点があった。



当社は、透明性に優れ食品の見栄えが良くなるPET原料の耐熱温度を上げるため、縦と横の二方向に延伸する二軸延伸技術開発に取組み、2012年11月、食品容器では世界初となる「二軸延伸PET」製品(以下OPET製品)を上市した。二軸延伸により耐熱性が上がるほか、強度もアップすることから、**製品の厚みを薄くして軽量化した結果、約27%のPET原料の省資源化が可能となった。**

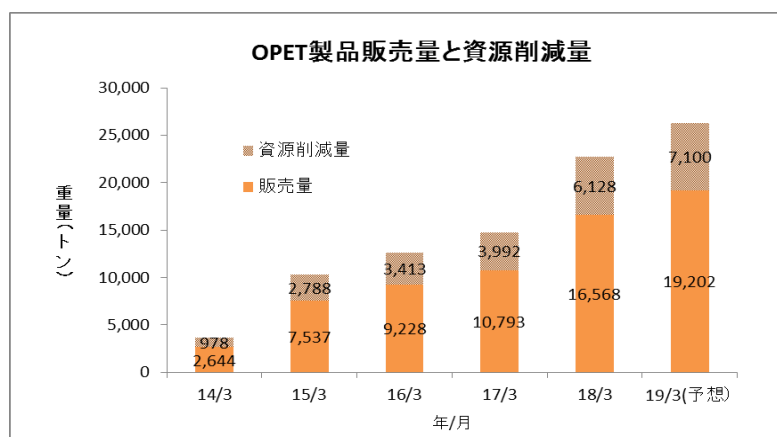


<数値目標>

2019年度 PET原料省資源化目標 ▲7,100t

<これまでの実績>

2015年3月期から2018年3月期の期間において、二軸延伸によるPET原料の省資源化は、約16,320トンである。





2018年11月20日

「プラスチック資源循環アクション宣言」
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社モスフードサービス

株式会社モスフードサービスは、事業活動がもたらす環境影響を認識し、環境保全活動に積極的に取り組むことで、循環型社会の実現と社会の持続的発展に向けて行動しております。

これまでに行ってきたおもなプラスチック資源循環アクションは、以下のとおりです。

① リユース食器の活用

創業以来、店内で提供する商品の容器やカトラリーは、使い捨てではないリユース食器を使用しています。

- 具体例（抜粋）
- ・ホットドリンク用マグカップ
 - ・アイスドリンク用ドリンクカップ
 - ・スープカップ
 - ・サラダ（S）用ボウル
 - ・ステンレススプーン、ステンレスフォーク

② 石油由来素材の使用削減

持ち帰り用の容器包装類には、できるだけ石油由来素材ではなく、再生可能原料やリサイクル原料を使用するよう努めています。

- 具体例（抜粋）
- ・ホットドッグ容器を発泡スチロール製から紙製へ（1999年～）
 - ・店内用トレイをメラミン製からリサイクルPET製へ（2001年～）
 - ・手提げ袋をポリ袋から紙バッグへ（2006年～）
 - ・持ち帰り用サラダ容器（一部石油系プラスチック製）をリサイクルPET製へ（2016年～）

今後もこれらの活動を継続するとともに、プラスチック資源が有効かつ適切に循環利用されるためのさまざまな取り組みを積極的に推進してまいります。

<この件に関するお問い合わせ先>

CSR推進室 社会共創グループ 担当：松田
TEL. 03-5487-7344 FAX. 03-5487-7340 E-mail. kankyo@mos.co.jp

<報道関係者からのお問い合わせ先>

会長・社長室 広報 IR グループ 担当：金田
TEL. 03-5487-7371 FAX. 03-5487-7389 E-mail. pr@mos.co.jp

株式会社モスフードサービス
〒141-6004 東京都品川区大崎 2-1-1 ThinkPark Tower 4F
<https://www.mos.co.jp/company/>



2018年11月20日

カゴメ プラスチック資源循環アクション宣言 2018 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

カゴメ株式会社

昨今の海洋ごみ問題を始めとした、プラスチックが生態系やヒトの生活に悪影響を及ぼしている現状を踏まえ、今後もカゴメは、有効な資源としてのプラスチックの適切な循環利用といった社会課題の解決に向けて、以下に掲げる取り組みを推進して参ります。

【1】商品におけるプラスチック使用量低減の継続推進

不要なプラスチックの排除、軽量化、代替素材への変更等を進めます。

【2】生産工場におけるゼロエミッション(含 廃プラスチック)の継続推進

カゴメでは「生産余剰物の99%以上を再資源化すること」をゼロエミッションと定義しています。2005年から現在まで実現してきたゼロエミッションを、今後も維持、継続します。

【3】再生PET原料の利用検討

国内でのPETボトルからPETボトルへのリサイクルを促進するため、使用済みPETボトルから再生されたPET原料の自社商品への利用可能性を検討します。

【4】プラスチック容器の散乱防止啓発のための環境美化活動の継続推進

事業所周辺の清掃活動、全国の環境美化活動団体への協力・支援等を今後も継続します。

以上、行政や業界団体、各企業と連携を取りつつ、企業市民としての活動に取り組んで参ります。

連絡先

担当部署:品質保証部環境システムグループ

電話番号:03-5623-8501

2018年11月16日

「プラスチック資源循環アクション宣言」
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社ニチレイ

ニチレイグループは、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、ごみとして環境中に放出されることなく、資源として適切に循環されていくよう、「有限な地球資源を効率的に利用していく」という考えの下に、

- ① 容器包装について、薄肉化のほか、トレーの使用やアルミ蒸着を見直すなど、適宜見直しを行います。
- ② 河川および港湾の近隣にある事業所周辺において、地域の清掃活動に取り組めます。

【事例紹介】

- ① 冷凍食品の製造販売を行っているニチレイフーズでは、容器包装プラスチックフィルムの薄肉化により、廃棄プラスチック量を削減しました。

実績

1. パリッとディッシュ春巻き : 11.4%削減
2. チキンライス : 6.6%削減
3. えびピラフ : 8%削減



② ニチレイグループの事業所では、地域の清掃活動を実施しています。

河川および港湾の近隣にある事業所周辺も多く、例えば隅田川に面している本社地区では、毎月1回、従業員が地域の清掃活動(ごみ拾い)を行っています。

<築地地区クリーン活動の様子>



<ニチレイグループ その他の事業所での活動風景>



プラスチック資源循環アグシヨシ宣言

2018年11月20日



株式会社 精工

「プラスチック資源循環アクション宣言」

株式会社 精工は、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、ごみとして環境中に放出されることなく資源として適切に循環されていくよう、

- ①減プラスチック化、
 - ②リユースの促進、
- に取り組んでまいります。

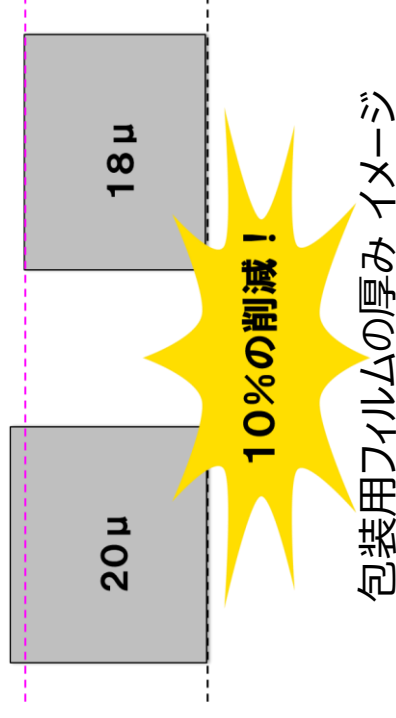
具体的内容につきましては次ページ以降に記載いたします。

関連URL：https://seikou-web.com/eco_product/

連絡先：株式会社 精工
担当部署：営業企画本部 営業企画部
電話番号：06-6360-6531（代）

1) 減プラスチック化 ①フィルム薄肉化

プラスチックフィルム袋のフィルムの厚みを少し薄くすることで、従来の強度や手触りをキープしつつ、プラスチック使用量を削減します。



弊社防曇エコシリーズは、これまで厚み20μのフィルムをお使いの方におすすめの商品で、2μ分薄くすることで、10%のプラスチック使用量を削減します。

1) 減プラスチック化 ②小分け袋の廃止

フィルム袋販売時、包装現場で小回りが利くよう、100枚ずつ小分け袋に包装した後に、紙箱にまとめて包装する形態が一般的です。

小分け袋は包装作業後は廃棄されます。



弊社防曇エコシリーズは、100枚ずつの小分け袋をなくし、フィルム袋1,000枚を化粧箱にダイレクトに詰めた商品で、小分け袋の無駄を省きました。

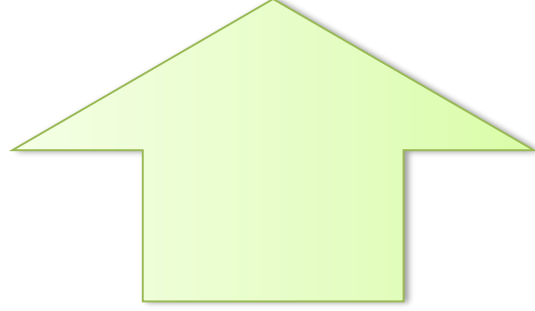
1) 減プラスチック化 ③ 容器包装からフィルム包装へ

プラスチック容器と比べ、フィルム袋はプラスチックの使用量が少ないというメリットがあります。
 例えばキウイフルーツ4個用の包装の場合、プラスチック使用量を約65%も削減できるケースもあります。
 フィルム袋でもしっかり自立する形状を提案し、容器包装よりもっと店頭でアピールできるような工夫をしております。



1) 減プラスチック化 ④植物由来原料のフィルム

「グリーンOPP」はさとうきびのしぼりかすから作られた「グリーンポリイチレン」を約5%混ぜたOPPフィルムです。
見ためは従来のOPPとほぼ同等の透明感ながら、プラスチック原料の使用量を抑えることができる、カーボンニュートラルの商品です。



1) 減プラスチック化 ⑤ポリ乳酸フィルムを活用

バイオマス由来のポリ乳酸を主原料としたプラスチックフィルムを包装資材に活用します。

ポリ乳酸フィルムは、化石原料の使用量を抑えるとともに、使用後に土中や水中に埋めると、水と二酸化炭素に生分解され、そのまま自然に還るといった特性があります。

また、燃焼時に発生する二酸化炭素量は化成原料からつくられたプラスチックと比べて少なくなります。

1) 減プラスチック化 ⑥ 製造工程の無駄を省く



多色印刷時、色ごとの自動見当合わせ装置が光学センサーで検出する「目印」。製品デザインの横に印刷され、印刷後の工程で切り取られ廃棄されます。



この目印部分を捨てずに、製品のデザインの中に組み込むことで、製造工程で発生する廃棄物を減らすことができます。こういったデザインへの切り替えをお客様に提案しています。

2) リユース促進

ご家庭用野菜保存袋の提案

冷蔵庫の中で乾燥しがちな野菜を保存する袋を提案しています。
鮮度保持効果が期待できるフィルムの使用も合わせておすすめしています。
チャック付袋は何度も開閉でき、繰返し使用でき利便性の高い包装です。

7ページ



- チャック付で繰返し開閉が可能
- サイズ展開することで内容物に合わせて整理整頓

生活者にも発信してまいります

「包む」でエコ



「フィルム」で
エコ



フィルムの一部に植物由来の原料を使用し、二酸化炭素排出量の削減に貢献します。

「インキ」でエコ



印刷インキの一部に植物由来の原料を使用し、二酸化炭素排出量を削減します。

「植物由来」
「ロス削減」で
エコ



- 植物由来原料使用
- バッケージフィルム印刷インキ
- プラスチック使用量を削減し、厚み・製造時のムダを見直しました。

「省資源」でエコ



パッケージ製造時に発生する廃棄フィルムを戻すことで、プラスチック使用量を約8%削減しました。

弊社は、年間約60億枚のプラスチックフィルム袋を製造しております。環境問題に配慮した包材には、具体的にはどういった形で環境問題に取り組んでいるのかを説明した文言もプラスチックフィルム袋に印字することで、生活者にも広く発信し、その活動への理解・賛同を求めています。

100年、1,000年以上先のことも達の未来のために！

①正しい環境に取り組む

環境にやさしい素材の使用

- ・ グリーンOPPの使用
- ・ 環境配慮インキの使用

化石原料使用の削減

- ・ フィルムの薄肉化
- ・ カラコンを製品にのこす
- ・ トレー・容器包装からフィルム包装への転換

環境に良い工場での製造

②正しい食育文化を守る

フードロスをなくす取り組み

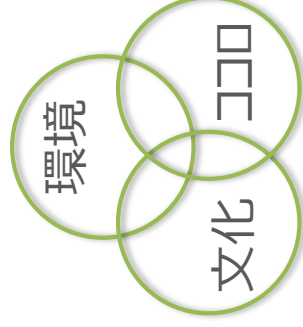
- ・ 鮮度保持での食品ロスを削減

③豊かな生活と心を育む

人にやさしく、地球にやさしい

環境対策への取り組み

- ・ 社員と社員の家族、社員の未来のことも達への配慮
- ・ 地球への人類への配慮



「包む」でエコ



安全で安心な包装を提供するだけでなく、健やかで豊かな地球環境を未来の世代に受け継いでいけるよう、全社一丸となって取り組んでまいります。



2018年11月20日

「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社セコマ

セイコーマートでは、プラスチック製品の3Rの取組みとして以下を行っています。

● セイコーマート店舗にて、店内放送でのレジ袋削減の呼びかけ

【セイコーマート店内放送内容】

セイコーマートからのお知らせです。

お買い物をする際に、レジ袋がご不要の場合は、お会計の際にお申し付け下さい。
限りある資源を大切に、皆様のご協力をお願い申し上げます。

- 放送地区：北海道、茨城県、埼玉県
- 放送回数：毎時2回

● セイコーマート店舗にて、たまごパックの回収

セイコーマート店頭にて、Secomaのたまご空容器パックのリサイクル回収を行っています。

たまご<10個入>空容器パック30枚分を店頭にお持ちいただいたお客様にBOXティッシュ1箱をお渡ししています。回収したたまごパックは、リサイクル業者に資源として渡しています。

セイコーマートのリサイクル

**セイコーマートで
紙パック・たまごパックをリサイクル**

**Secoma 対象商品の10紙パック20枚分または、
たまご(10個入)空容器パック30枚で
リサイクルBOXティッシュ1箱と交換いたします。**

① **Secoma 牛乳・100%ジュースなど**
※サロベツ牛乳は除く。

10紙パック20枚分
※500mlパックは2枚で1パック1枚分に換算いたします。

② **Secoma たまご(10個入)**

空容器パック30枚分
※6個入りパックは2枚、4個入りパックは3枚で、10個入りパック1枚分に換算いたします。

**①または②がたまったら! お近くのセイコーマートにお持ちください。
BOXティッシュ1箱と交換します。**
リサイクルに、ぜひご協力ください!

関連 URL: https://www.seicomart.co.jp/service/service03_eco.html



2018年11月20日

「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

ワタミ株式会社

ワタミグループは、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、ごみとして環境中に後出されることなく、資源として適切に循環されていくよう、

1. プラスチック製品の段階的使用の低減（リデュース）
2. 積極的な再使用（リユース）と再生利用（リサイクル）
3. 排出者責任の原則に基づく分別の徹底と適正処理の遵守
に取り組んで参ります。

具体的な行動

- 1-① TGIフライデーズ（国内14店舗展開）では、紙製のストローを導入することを決定いたしました（2019年1月より）。また、その他の店舗（国内460店舗展開）では、生分解性のものなどへの切り替えができないか検討しています。
- 1-② 店舗で使用している調味料容器や持ち帰り用容器や、お弁当の宅配事業で使用している弁当容器において環境に配慮した容器の導入を検討しています。
- 2-① 店舗、営業所、セントラルキッチンで使用している洗剤容器を詰め替えするなどしてリユースできないか検討しています。
- 3-① 分別表を活用するなど、従業員の環境意識と分別精度を高めることに努めていきます。
- 3-② 資源として活用できるものはリサイクルを前提とした適正な処理フローを構築していきます。

以上

連絡先：ワタミ株式会社
担当部署：広報部
電話番号：03-5737-2784

「プラスチック資源循環アクション宣言」

食品包装におけるプラスチック使用量の減量化に向けた取り組み

株式会社 悠心

株式会社悠心は、海洋に漂うプラスチックごみが新たな環境問題とされているなか、プラスチックの使用量を減らすことが地球環境問題の対応策の一つになると考え、

1. プラスチック減量化を可能にした容器の開発
2. プラスチック包装袋のシール幅を狭くしプラスチック減量化を図る液体充填包装機の開発を通して「減プラスチック」に取り組んでまいります。

【プラスチック減量化の実現についての具体的なアクション】

1. プラスチック減量化を可能にした容器の開発

～ P I D鮮度保持高機能容器の飲料容器への利用に向けた開発 ～

弊社では、開封後も密封状態を保つことで中身の鮮度を長期間保持する容器としてP I D容器（Pouch in Dispenser）を開発いたし、9年間近く市場に送り出しています。

このP I D容器は、開封後の鮮度保持能力により調味料等の容器開発に新たな方向性を見出しただけでなく、大幅なプラスチックの減量化に成功したことも大きな特徴の一つになっています。

現在、飲料用として開発中のP I D容器「C Tカートン」においては、900ml用のサイズの場合プラスチック使用量はわずか12g程度で、一般的な飲料用900ml ペットボトル（重量約35g）に比べ、約1/3に減量化が可能になり、従来の調味料容器の減量化に比べさらにプラスチックの減量化に貢献できると考えております。

また、開封後も密封状態を保つP I D容器は、中身の品質を長期に渡り保持することができ、他の飲料容器よりも味や香り等といった品質の劣化を抑えることに優れ、食品残渣の廃棄量減少へつながり、結果的にプラスチックの廃棄量減少に結び付くことになるため、多くの食品や工業製品等で利用できるよう開発を継続してまいります。

2. プラスチック包装袋のシール幅を狭くしプラスチック減量化を図る液体充填包装機の開発

弊社では、液体粘体用充填包装機の開発において、固形物を含んだ液体や高粘度の内容物の液中シールの実現等を進めるなか、プラスチック袋の封止部となるヒートシール部（四角形の袋の4辺の内2辺の部分）の幅を従来品に対し約1/2に狭くできる技術を開発しました。

従来、包装袋のシール部は、袋の大きさに関係せずシール部が8mm～10mm程度処理されていること大半でしたが、弊社のヒートシール技術とカット技術により、シール幅を4mm～5mm程度にすることが可能になりました。

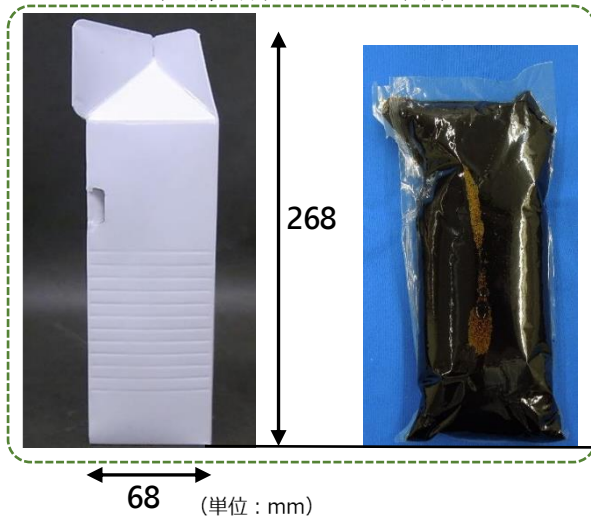
今後は、この技術を搭載した充填包装機をご利用いただくことで、従来の食品などの生産量が変わらなくても、ご利用される企業が、その商品をお買い求めになる消費者の皆様がプラスチックの減量化に貢献していただけるよう開発を進めてまいります。

連絡先 : 株式会社 悠心
担当部署 : 東京支店
電話番号 : 03-6228-6408

1. プラスチック減量化を可能にした容器の開発

＜PID容器 「CTカートン」 900ml＞

(外装容器 + 内袋)

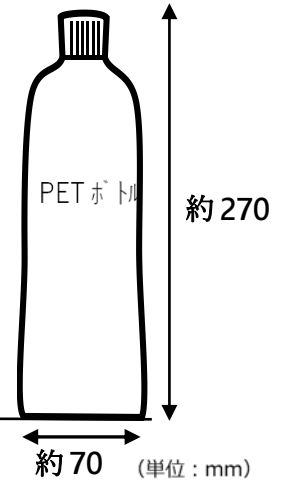


- ・外装容器のプラスチック使用量：約 4.5g
- ・内袋のプラスチック使用量：約 7.5g

(抽出)



＜ペットボトル 900ml＞



- ・ペットボトル
プラスチック使用量：30～45g 程度

使用プラスチックの比較

「CTカートン」 900ml	プラスチック 約 12g
ペットボトル 900ml	プラスチック 約 35g

* 「CTカートン」の外装容器の紙使用量は約 39g (古紙約 60%を含む) になります。

2. プラスチック包装袋のシール幅を狭くしプラスチック減量化を図る液体充填包装機の開発
一般的な横シール部の袋 幅を狭くした横シール部の袋

8mm～ 10mm ⇒ 4mm

袋の長袋の長さが 100mm の袋の場合、約 12.0% の減量が可能になります。

